

# 大阪医科大学学報

第82号 平成21年11月  
(インターネット版)



ツワブキ

## ◆目

看護学部研究棟地鎮祭・看護学部設置認可…	2
「周産期医療環境整備事業」採択…	4
三大学医工薬連環環境科学シンポジウム…	5
寄付金関係…	6
西水会寄付報告…	9
受賞等について…	10
平成22年度入学試験要項…	11
大学安全対策室紹介…	15
中山国際医学医療交流センター…	16
患者さま図書サービス…	27
医学教育指導者フォーラム報告書…	28
BLSワークショップ報告…	34
学内行事…	36

## ◆次

看護専門学校…	39
卒後臨床研修センター…	41
医療安全対策室…	42
感染対策室…	44
キャリア形成支援センター…	45
緩和ケア委員会報告…	48
市民公開講座…	50
保健管理室からのお知らせ…	52
歴史資料館関係・研究助成金等について…	53
研修結果報告…	54
主要会議報告…	55
行事日程・附属病院関係…	57
平成21年度医療事故防止標語の標語決定…	58

### ● 看護学部研究棟地鎮祭について ●



去る9月5日（土）午前11時から、看護学部研究棟の地鎮祭が北キャンパス（八丁西町）で初秋の晴れわたる青空の下、挙行されました。

國澤理事長をはじめ法人関係者、林看護学部設置準備室長、工事関係者など24名の参列を得て、野見神社福本宮司を祭主に厳かに地鎮祭は開式されました。

理事長による穿初（ウガチゾメ）の儀等の地鎮行事の後玉串が奉奠され、最後に参列者全員が神酒拝戴を受け、滞りなく祭式は終了いたしました。

引き続き、看護専門学校校舎2階の多目的室において「直会（ナオライ）」が開催されました。理事長から看護学部設置に携わった関係者に対するねぎらいと感謝の意が述べられ、工事の安全と竣工を祈念する植木常務理事の乾杯により歓談に入りました。

これにより看護学部研究棟は着工され、平成22年4月の看護学部開設に向けてのハード面での整備が始まりました。

看護学部研究棟は鉄筋コンクリート造2階建、延べ面積820㎡、研究室数は最大26室となっており、開設時には学部長室を始め教授室などが配置され、竣工は平成22年3月中旬の予定です。



### 『大いなる希望：大阪医科大学看護学部開設に向けて』

看護学部開設準備室 室長 林 優子  
副室長 田中克子

平成21年10月30日付けで、大阪医科大学看護学部看護学科の開設が認可されました。平成22年度開設予定の大学のうち、本学のみが「留意事項、特になし」との審査結果を受けての認可でした。このことは、現在の法人経営の健全性と私どもの看護学部構想における看護学教育が高い評価を得たことを意味するものといえます。この審査結果を自負しつつも、今後は看護学部構想に示した内容を着実に実現させていくことが大きな課題であると考えています。

本学の看護学部設置の動きについては、藤本守学長時代に教授会で看護学部設置が論じられ

てから14年の年月を経てきたことを伺いました。その間、多くの紆余曲折がありながらも、医学部あるいは看護専門学校先生方のご努力とご熱意が今に至るまで存続していたことは疑う余地もありません。特に、今回の看護学部設置構想は平成14年6月当時の看護専門学校長が組織された看護学校改革準備委員会に始まると聞き及んでいます。今回の学部設置認可の快挙につきましては、設置認可に至るまで、莫大な量の申請作業に直接関わられてきた学校法人与大学の教職員の皆様、ご支援を賜りました学外本学関係者の皆様、すべての皆様にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

さて、先日驚くことがありました。大阪医科大学松本信一初代学長が昭和23年ごろに4年制の大学教育として看護教育を考えていたという事実を知ったからです。「生物学部構想の大学概略」と書かれた貴重な資料に、甲種看護師（今で言う正看護師）と保健師の養成機関として4年制大学構想（保健学科看護学講座）が記述されておりました。そのころは、戦後GHQが日本の看護学教育改革に力を注いだ時代でもあり、恐らくその影響があったのではないかと推察いたします。しかし、戦後間もない時期に看護教育を4年制の大学教育として考えていた医師が大阪医科大学におられたことは、看護学部開設準備室の私どもにとっては非常に誇り高き思いがいたします。

本学の歴史を振り返ってみますと、昭和2年に5年制の大阪高等医学専門学校として文部省（文科省）の設立認可を受け、また付属看護学校は昭和4年に設置認可を受けてから、両校ともに80数年という長きにわたり教育が行われてきました。医学部における教育の独創性は、「国内外を問わず如何なる地域においても活躍できる能力を持った医人を育てようとするところにあった」といわれています。また、設立理念の根底にあるものは、「実地臨床と実学研究にあたるよき医人の養成」であるといわれています。それらの精神を看護学部も継承していくことが大阪医科大学看護学部としての使命であると考えています。

したがって、私どもが目指す看護学部は、いつでもどこでも誰に対してでも真摯に対応できる高い実践能力を持った自立した看護職（看護師・保健師・助産師）の養成です。そのために、自発的かつ応用力のある国際性豊かな人材育成を目指して、実践重視の看護学教育を実施してまいります。まず、学生の自由な発想を支持し学生が自由に発言できる、そして、学生が考える楽しさや創造する楽しさを感じることが出来る教育的環境を作りたいと思います。失敗があればそれは自分にとって意味あることであると学生自らが気づき、新しい自己形成を培っていけるような教育的環境です。

学生たちは、4年間の専門職教育（professional education）を通して、看護師・保健師・助産師に共通した看護専門職の基礎を学んでいきます。また、研究の基礎能力、看護職として生涯学び成長し続けていくことができるような基礎能力を身につけていきます。こうして来春からは学部教育の充実を図り、その実現を目指すとともに、高度な看護専門職業人の養成（専門看護師 *certified nurse specialist*）と、教育・研究に携わる専門職の養成を目指した大学院設置に向けて努力していきたいと思っております。

現在、私ども看護学部開設準備室は、医学部の協力の下、看護学部開設の準備を精力的に進めています。来春から看護学部がスタートいたしますが、教育の充実は学内外の皆様のお力添えがなければできません。私ども看護学部教員予定者一同は、看護に向けた大いなる夢と希望を学生たちに与えることができる教育を実現させていきたいと願っています。どうか皆様の暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

（文責 林 優子）

■ 平成22年度開設予定の大学の設置等に係る答申について

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/daigaku/toushin/1286164.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/daigaku/toushin/1286164.htm)

# 「周産期医療環境整備事業（人材養成環境整備）」採択

平成21年度文部科学省

「周産期医療環境整備事業（人材養成環境整備）」に採択されました

## 1. 名称「高度周産期医療人養成推進プログラム」

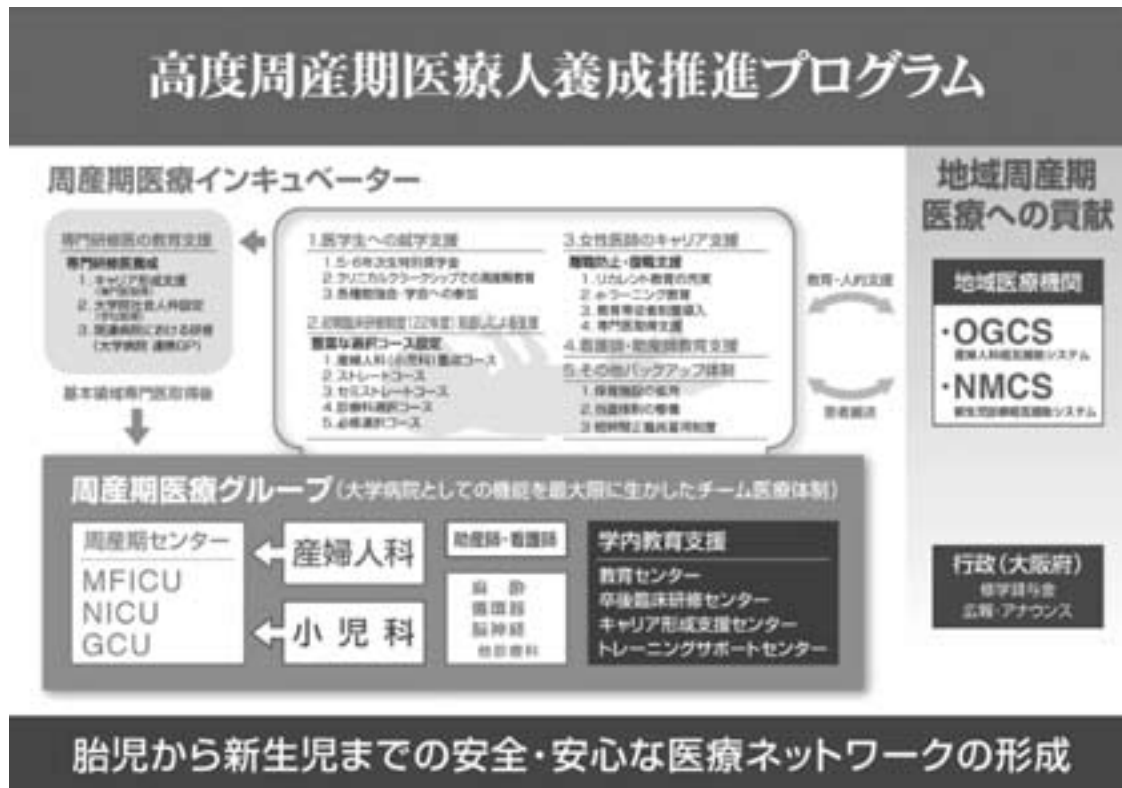
胎児から新生児までの安全・安心な医療ネットワークの形成

## 2. 概要

近年、周産期医療現場は産婦人科医師、小児科医師の減少により、深刻な人手不足に陥っており医療体制の整備は急務となっています。このような問題に対応するため、本取組では、本院の特性と実績を生かし、ハイリスク妊娠・分娩や病的新生児に対応できる高度周産期医療の教育環境を整え、周産期医療の充実に必要な幅広い人材を育成します。

具体的には、①早期からの医学生教育及び若手医師に対する周産期医療の教育・研修を積極的に実践することで、周産期医療に精通した医師、高度な周産期医療技術を持つ周産期専門医を養成する。また、②女性医師及び看護師等の離職防止や復職に対応できる柔軟な体制を整備して有効な人材活用を行う。さらに、③慢性的な人手不足を解消させるために、本取組を地域医療機関に拡大して地域と一体となった教育環境を整備し、周産期医療に精通した人材を地域に循環させ、地域周産期医療の活性及び充実に目的としています。

(取組のイメージ図)



関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学  
三大学医工薬連環科学シンポジウムが開催されました

関西大学先端科学技術推進機構研究部門講演会  
(B部門 生命医工薬科学研究会 第1回講演会)

文部科学省戦略的大学連携支援プログラムの一環として、下記の通りシンポジウムが開催されました。

日 時：平成21年10月9日(金) 14:00~17:10

場 所：関西大学千里山キャンパス第4学舎(理工系) 3号館4階中会議室



プログラム：(司会：関西大学 長岡康夫 准教授)

14:00 開会挨拶

14:10 「三大学医工薬連環科学の目指すもの」 関西大学 土戸哲明 教授  
(三大学医工薬連環科学教育研究機構長)

14:30 「生命医工薬科学研究会の目指すもの」 関西大学 上里新一 教授

14:50 講演「細菌のナノトランスポートシステムと病気」  
大阪医科大学 佐野浩一 教授

15:30 休憩

15:40 講演「病原細菌 *Vibrio vulnificus* の宿主生体内における生存戦略」  
大阪薬科大学 辻坊 裕 教授

16:20 講演「氷核活性細菌」  
関西大学 小幡 斉 教授

17:00 閉会挨拶

講演終了後：懇親会



長岡康夫准教授



土戸哲明教授



上里新一教授



佐野浩一教授



辻坊 裕教授



小幡 斉教授

### 大阪医科大学基金の創設

平素より本学の事業にご理解とご協力を賜り心より感謝いたしております。本学は昭和2年4月に前身である大阪高等医学専門学校が設立されてから平成19年に80周年を迎えました。この間、国際的視野に立った臨床能力に優れた良医を養成すべく、篤志家の皆様の協力を得ながら教職員、同窓が一丸となって努力してまいりました。お蔭様で本学に対する評価も年々高まり、私立医科大学の雄として高い評価を受けております。

現在、本学は新たな教育・研究・医療活動に積極的に取り組み世界レベルの大学を目指して鋭意努力を続けておりますが、国の医療費及び補助金の削減政策等により、本学を取り巻く社会環境は厳しくなっております。それぞれの活動や環境整備を充実させるためには多くの資金を必要とすることから、大阪医科大学は、将来にわたる財政基盤を強化するために「大阪医科大学基金」を創設いたしました。

今後はこの基金の充実を図り、基金の運用益をベースに教育・研究、大学のインフラを整備することで、より優秀な学生を集められ、人類の福祉と文化に貢献できる医療人を育成していきます。

そのために、企業・団体、個人、教職員、卒業生の方々などにご寄付を仰ぎ、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

なにとぞ、この趣旨にご理解とご賛同を賜り、格別のご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

平成21年6月

学校法人大阪医科大学  
理事長 國澤 隆雄

### 基金の使途

本学の教育・研究の一層の充実やインフラ整備を図るため、財務基盤の強化に資するものです。

主な使途は以下のとおりです。

1. 本学教職員・学生等の教育・研究の充実及びそのための環境整備
2. 本学で学ぶ学生等への奨学金等の支援
3. 本学教職員・学生等の国際・文化・体育活動への支援
4. 社会や卒業生との連携活動等の支援
5. キャンパス内の環境整備・美化の支援
6. その他基金の目的達成に必要な事業

### ご寄付のお願い

大阪医科大学基金は皆様のご寄付によって成り立ち、その運用益をベースに大阪医科大学の活動を支援していくものです。

大阪医科大学基金は、いただいたご寄付を基金として積み立て、その基金を運用し、その運用益で様々な事業に積極的に取り組んでいくものです。

大阪医科大学基金に皆様の温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1. 募金の名称 : 大阪医科大学基金
2. 募金の目標額 : 50億円
3. 寄付金額 : 1口1万円 \*できるだけ複数口のご協力をお願いいたします。  
※なお、遺贈によるご寄付を受け付けいたしております。また、不動産・株式等の現物によるご寄付も承っております。
4. 申込方法 : 寄付申込書に所定事項をご記入ご捺印の上、返信用封筒にてお申し込み下さい。  
寄付申込書は3種類あります。個人の場合は個人用(様式1)を、法人の場合は特定公益増進法人寄付金(様式2)または受配者指定寄付金(様式3)のいずれかの用紙を選択してご使用下さい。
5. 払込方法 : お近くの金融機関より下記口座にお振込みをお願いします。  
口座名義 学校法人大阪医科大学(募金口)  
振込先口座番号 三井住友銀行 高槻支店  
普通預金 2161078  
本学所定の振込用紙をご利用して三井住友銀行の本支店でお振込みされた場合は、お振込手数料は無料です。
6. その他 : ご寄付をしていただいた方のご芳名を、末永く顕彰させていただくために銘板にご芳名を刻み、掲額予定です。  
掲額条件 個人: 5万円以上  
法人: 50万円以上

### ○ご寄付のお申込について

ホームページの「大学からのお知らせ」→「募金のご案内」よりダウンロードした「寄付申込書」にご記入の上、募金推進本部までFaxまたは郵送にてお送りください。

※募金推進本部へご住所をご連絡いただければパンフレット、「寄付申込書」、「振込用紙」を郵送させていただきます。

募金推進本部 TEL: 072-684-7243(直通) FAX: 072-681-3723

E-MAIL: kikin@art.osaka-med.ac.jp

# 寄付金報告

---

## ■ 創立80周年記念事業寄付金の応募状況について

---

### <寄付金申込者>

平成21年7月1日から平成21年10月4日までの間の寄付金入金件数は、20件、金額は4,840,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。  
なお、募集当初から平成21年10月4日までの寄付金入金件数は331件、金額は121,777,000円です。

(順不同・敬称略)

須賀工業株式会社大阪支社 医療法人社団操健康クリニック 医療法人社団映夕会内田内科  
北川 登士 金子 仁 石田 達也 山田 晴美 大槻 政雄 林 茂 赤松 英男  
鈴木 元太郎 宇野 博志 隠岐 和彦 山本 哲夫 岡島 邦雄 藤本 昌良 梅津 欣三  
匿名3件

## ■ 教育環境整備寄付金の応募状況について

---

### <寄付金申込者>

平成21年7月1日から平成21年10月4日までの間の寄付金入金件数は、3件、金額は4,000,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。  
なお、募集当初から平成21年10月4日までの寄付金入金件数は41件、金額は85,800,000円です。

(順不同・敬称略)

橋本 一彦 市岡 博 匿名1件

## ■ 大阪医科大学フレンズ会への入会状況について

---

募集当初から平成21年10月4日までの寄付金入金件数は、317件、金額は7,905,000円です。

## ■ 創立80周年記念事業募金別館講堂「机募金」応募状況について

---

### <寄付金申込者>

平成21年6月25日から平成21年10月4日までの間の寄付金入金件数は、1件、金額は300,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。  
なお、募集当初から平成21年10月4日までの寄付金入金件数は27件、金額は9,300,000円です。

(順不同・敬称略)

曾野 功

## ■ 「別館」・「歴史資料館」維持事業に係る寄付金の応募状況について

---

募集当初から平成21年10月4日までの間の寄付金入金件数は、5件、金額は177,000円です。

## ■ 新学部設置事業寄付金の応募状況について

---

### <寄付金申込者>

平成21年7月1日から平成21年10月4日までの間の寄付金入金件数は、10件、金額は8,885,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。  
なお、募集当初から平成21年10月4日までの間の寄付金入金件数は77件、金額は22,901,000円です。

(順不同・敬称略)

有限会社すばる印刷 仁泉会守口支部むらさき会 藤田 一彦 内藤 尚武 田中 清子  
陵本 清剛 匿名2件



## ■ 大阪医科大学基金の応募状況について

### <寄付金申込者>

平成21年6月から平成21年10月4日までの間の寄付金入金件数は、50件、金額は4,570,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

(順不同・敬称略)

医療法人川村会くほかわ病院	シンワ株式会社	三田理化学工業株式会社	ABC薬局
公立穴栗総合病院	東洋紙業高速印刷株式会社	大阪府済生会泉尾病院	株式会社フロリスト花正
植木 實 成松 正治 田原 一也 宇野 博志 打橋 健一 熊谷 広治 奥村 悦之			
米田 正國 井上 泰 福本 攻 橋本 克孝 柴谷 昭治 久保井 敬之 太田 元治			
柿本 祥太郎 吉中 英雄 松井 裕 小野 喜弘 内藤 尚武 寺倉 勝彦 松永 光史			
陵本 清剛 和田 晃直 鎌谷 三夫 上原 昭夫 俵 正市 三村 峻三 丸山 定之			
加藤 一博 内藤 尚武 大谷 晴彦 上田 敏恵 上田 つぎ彥 丸川 治 丸川 恭子			

匿名7件

### ※寄付についてのお問合せ先

募金推進本部

TEL：072-684-7243(直通) FAX：072-681-3723

E-mail：kikin@art.osaka-med.ac.jp

## 西水会寄付報告

平成21年度、西水会食事会で実施いたしました募金の総額は、¥96,980でした。

以下、領収書の通り寄付いたしましたのでご報告いたします。



感謝状

〔私〕大阪医科大学  
西水会様

このたびは、ユニセフ募金をありがとうございました。  
〔私〕大阪医科大学のみなさんが、世界の子どもたちが抱える課題について考え、ユニセフに協力してくださったことを心強く思います。みなさんからの募金は、150以上の国と地域でユニセフのさまざまな活動に使われます。  
ユニセフは、貧困、紛争などの厳しい状況下で懸命に生きる子どもたちを支え、すべての子どもたちの権利が守られる世界を創出して活動を行っています。  
これからも同じ地球に生きる仲間として力を合わせ、よりよい世界を創っていきましょう。

2009年08月17日

財団法人 日本ユニセフ協会  
ユニセフ学校募金委員長  
白井 裕 様

unicef



領収書

2009年08月17日  
金額 ¥96,980

〒565-0871 大阪府吹田市  
西水会事務所

西水会 代表 白井 裕

〒565-0871 大阪府吹田市  
西水会事務所

このたびはユニセフ学校募金にご協力を賜り、誠にありがとうございました。  
ここに領収書および感謝状をお送りいたします。  
ご協力いただきました皆様へよろしくお伝えいただければ幸いです。  
今後とも引き続きユニセフの事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。  
本席ながら貴校のますますのご発展をお祈り申し上げます。

ユニセフ 学校募金委員長  
●白井 裕 様、お名前、お申し込みの住所  
〒565-0871 大阪府吹田市  
●〒565-0871 大阪府吹田市  
〒565-0871 大阪府吹田市

## 受賞等について

### 受賞等について

#### 日本小児眼科学会賞受賞

感覚機能形態医学講座 眼科学教室 宋 由伽先生 (非常勤医師)

日本小児眼科学会賞は、毎年小児眼科領域の最も優秀な論文の執筆者に送られる名誉ある賞ですが、本年度の本学術賞に本学眼科学教室の宋由伽先生(平成15年入局、現在枚方市民病院眼科勤務)が選ばれました。受賞論文は「Progression and timing of treatment of zone I retinopathy of prematurity」で、眼科の英文雑誌ではトップクラスのAm J Ophthalmolに掲載されたものです。大阪府立母子保健総合医療センター眼科の初川嘉一部長のご指導で、宋先生が同センター勤務時代の未熟児網膜症に関する仕事をまとめたものです。

眼科学教室 教授 池田恒彦



#### 社団法人日本看護協会 会長表彰受賞

附属病院看護部 小野 恵美子 看護部長

平成21年5月18日(月)、新潟市・朱鷺メッセで開催された平成21年度総会において、永年にわたり日本看護協会の発展に貢献された方々に対する表彰式が行われました。



#### 大阪府看護事業功労者知事表彰受賞

附属病院看護部 豊田 瑞恵 看護副部長

平成21年5月12日(火)、長年にわたり、看護業務に精励し府民の健康維持向上に大きな功績のあった方々に対する表彰式が、ナーシングアート大阪(大阪府看護協会)で行われました。



# 平成22年度入学試験要項

## —平成22年度入学試験について—

平成22年度医学部医学科・看護学部看護学科・大学院医学研究科の入学試験の概要をお知らせ致します。

### I 平成22年度 医学部医学科 一般（前期・後期）及びセンター試験利用入学試験 日程

#### ■一般入学試験

試験区分	一般入学試験（前期）	一般入学試験（後期）
募集人員	90名	15名
出願期間	平成21年12月15日（火）～ 平成22年1月29日（金） ※締切日当日消印有効・郵送に限る	平成21年12月15日（火）～ 平成22年3月1日（月） ※締切日当日消印有効・郵送に限る
入学検定料	60,000円	60,000円
1次試験日	平成22年2月10日（水）	平成22年3月10日（水）
1次試験場	【大阪会場】 関西大学 天六キャンパス 【名古屋会場】 河合塾 名駅キャンパス16号館名古屋校 【広島会場】 広島国際大学 広島キャンパス (国際教育センター)	【大阪会場】 河合塾大阪校 【福岡会場】 八重洲博多ビル 【名古屋会場】 河合塾 名駅キャンパス16号館名古屋校
1次試験合格発表日	平成22年2月19日（金）16時	平成22年3月16日（火）16時
2次試験日	平成22年2月23日（火） ※1次試験合格者のみに実施	平成22年3月19日（金） ※1次試験合格者のみに実施
2次試験場	本学 本部キャンパス	本学 本部キャンパス
2次試験合格発表日	平成22年2月26日（金）13時	平成22年3月20日（土）13時
入学手続期間	平成22年2月27日（土）～ 平成22年3月4日（木） ※最終日の15時まで	平成22年3月23日（火）～ 平成22年3月26日（金） ※最終日の15時まで

#### ■センター試験利用入学試験

募集人員	5名
出願期間	平成21年12月15日（火）～平成22年1月29日（金） ※締切日当日消印有効・郵送に限る
入学検定料	32,000円
1次試験日	平成22年1月16日（土）・17日（日） (大学入試センター試験)
1次試験合格発表日	平成22年2月26日（金）13時
2次試験日	平成22年3月2日（火）※1次試験合格者のみに実施
2次試験場	本学 本部キャンパス
2次試験合格発表日	平成22年3月3日（水）13時
入学手続期間	平成22年3月4日（木）～平成22年3月9日（火） ※最終日の15時まで

# 平成22年度入学試験要項

## 共 通 事 項 (一般・センター)

### 1. 納 入 金

(単位：円)

項目	初 年 度 納 入 金			2 年次以降 納入金 (年額)
	納期 第 1 期 (入学手続時)	第 2 期 (9月15日)	第 3 期 (1月15日)	
入 学 金	1,000,000			
授 業 料	640,000	620,000	620,000	1,880,000
実 習 料	120,000	120,000	105,000	345,000
施設拡充費	420,000	420,000	420,000	1,260,000
教育充実費	3,000,000	1,000,000	1,000,000	900,000
納 期 別 計	5,180,000	2,160,000	2,145,000	
年度別納入金	9,485,000			4,385,000
6 年間総計	31,410,000			

(注) 上記納入金以外に、入学手続時にPA会(保護者会)会費(年額100,000円)のうち第1期分50,000円および校友会入会金5,000円、校友会会費(年会費)10,000円をそれぞれ委託徴収します。

### 2. 任意の寄付

入学後、「募集趣意書」により任意の寄付金をお願いします。

※入学前の寄付金募集は行っていません。

### 3. 既納入金の返還について

入学手続完了者で平成22年3月31日(水)17時までに本学所定の書面により入学辞退を申し出た場合、入学金以外の納入金を返還します。

### 4. 奨学金貸与制度について

本学では、学業・人物ならびに経済的事情等を考慮して、選考のうえ貸与する奨学金制度(1学年原則として5名、1人当たり年額約170万円)があります。

上記の他、仁泉会(本学同窓会)奨学金、日本学生支援機構奨学金(旧：日本育英会)、その他の奨学金貸与制度もあります。

### 5. 特別奨学ローン制度について

本学に入学した者および在学生の保護者に対して、本学と協定を結んだ銀行(三井住友銀行 高槻支店、三菱東京UFJ銀行 茨木駅前支店)による本学納入金を使途とする特別奨学ローン制度があります。

融資を希望される方は、融資が実行されるまでに相当期間(原則として申し込みから2週間以上)が必要であるため、できるだけ早く各銀行に相談され、お申し込み下さい。

出願資格や各入学試験実施の詳細等については、必ず  
入学試験要項(有料：1,200円)の内容をご確認下さい。  
資料は下記ホームページから請求可能です。

■入試に関する最新情報や資料請求は■

大阪医科大学ホームページ : <http://www.osaka-med.ac.jp/>

■入試に関するお問い合わせは■

大阪医科大学 広報・入試センター TEL072-684-7117(直)

# 平成22年度入学試験要項

## Ⅱ 平成22年度 看護学部看護学科 一般（前期・後期）・推薦・社会人入学試験概要

### ■一般入学試験

試験区分	一般入学試験（前期）	一般入学試験（後期）
募集人員	50名	15名
出願期間	平成21年11月2日（月） ～ 平成22年1月8日（金） ※締切日当日消印有効・郵送に限る	平成21年11月2日（月） ～ 平成22年2月19日（金） ※締切日当日消印有効・郵送に限る
入学検定料	35,000円	35,000円
試験日	平成22年1月22日（金）	平成22年2月28日（日）
試験会場	関西大学 天六キャンパス	大阪医科大学 本部北キャンパス
合格発表日	平成22年1月29日（金）13時	平成22年3月9日（火）13時
手続締切日	第1次手続締切日 平成22年2月9日（火）15時 第2次手続締切日 平成22年2月26日（金）15時	平成22年3月23日（火）15時 【一括納入】

### ■特別選抜試験

試験区分	推薦入学試験（併願制）	社会人入学試験
募集人員	20名（社会人若干名を含む）	
出願期間	平成21年11月2日（月）～ 平成21年11月20日（金） ※締切日当日消印有効・郵送に限る	
入学検定料	35,000円	
試験日	平成21年12月3日（木）	
試験会場	大阪医科大学 本部キャンパス 新講義実習棟	
合格発表日	平成21年12月7日（月）13時	
手続締切日	第1次手続締切日：平成21年12月25日（金）15時 第2次手続締切日：平成22年1月15日（金）15時	

### ■納入金

（単位：円）

項目	納期	初年度納入金		2年次以降 納入金（年額）
		前期（入学手続時）	後期（9月1日～30日）	
入学金		300,000		
授業料		550,000	550,000	1,100,000
実習料		100,000	100,000	200,000※
施設拡充費		150,000	150,000	300,000
納期別計		1,100,000	800,000	
年度別納入金		1,900,000		1,600,000
4年間総計		6,700,000		

※助産学実習受講者は、4年次の実習料が500,000円となります。

### ■奨学金貸与制度について

日本学生支援機構奨学金の他、本学独自の奨学金として以下の制度があります。

- ①給付型…入学者のうち、一般入試（前期）の成績優秀者上位4名に対し50万円給付。
- ②貸与型…入学後、家計急変等の事情がある学生（4名まで）に対し50万円貸与。
- ③その他…ローン会社と本学との提携による分納制度。ローン上限は4年間の学納金全額相当分（約700万円）で、無担保。

# 平成22年度入学試験要項

## Ⅲ 平成22年度 大学院医学研究科（博士課程）一般・社会人・外国人留学生入学試験要項

### 1. 専攻・コース名

専攻・コース名		授 業 科 目			
医 学 専 攻	予防・社会医学研究 コース	微生物学・感染制御学 リハビリテーション医学	法医学 心理学	衛生学・公衆衛生学	救命救急医学
	生命科学研究 コース	解剖学	生理学	生化学	薬理学 生体分子学
	高度医療人養成 コース	病理学	内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 内科学Ⅲ	神経精神医学	小児科学 皮膚科学 放射線医学 臨床検査医学 一般・消化器外科学 胸部外科学 脳神経外科学 整形外科学 眼科学 耳鼻咽喉科学 産婦人科学 麻酔科学 泌尿器科学 口腔外科学 形成外科学 救命救急医学 リハビリテーション医学
	再生医療研究 コース	解剖学	一般・消化器外科学	胸部外科学	整形外科学 産婦人科学 形成外科学 脳神経外科学 病理学 眼科学
	先端医学研究 コース	【がん医療に携わる専門医師養成コース】 ・がん薬物療法医プログラム ・放射線治療医プログラム ・腫瘍内視鏡外科医プログラム		内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 放射線医学 一般・消化器外科学 胸部外科学 泌尿器科学 産婦人科学	
		【腫瘍特異的治療研究コース】		脳神経外科学 放射線医学	
		【疾患プロテオミクス解析コース】		臨床検査医学 薬理学 生理学	

### 2. 入学試験

募集人員	54名（一般入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験の合計）	
出願期間	平成21年12月1日（火）～平成22年1月8日（金）※必着	
入学検定料	30,000円	
試験日	平成22年2月5日（金）	専攻授業科目
	平成22年2月6日（土）	外国語・面接
合格発表	平成22年2月26日（金） 9時	
入学手続締切	平成22年3月12日（金） 15時	

### 3. 納入金

	初 年 度 納 入 金			2年次以降納入金 （年額）
	第1期 （入学手続時）	第2期	第3期	
入 学 金	230,000円			
授 業 料	70,000円	70,000円	60,000円	200,000円
実 習 料	40,000円	30,000円	30,000円	100,000円
合 計	340,000円	100,000円	90,000円	300,000円

### 4. 奨学金給付制度

解剖学、病理学、微生物学・感染制御学、生理学、生化学、薬理学、生体分子学、衛生学・公衆衛生学、法医学、心理学に所属する学生に対し、経済的状况等を総合的に勘案し、在学期間中に年額300,000円の奨学金を給付します。

### 5. 学生教育研究災害障害保険

大学院在学中、実験・実習などの正課、大学行事、課外活動、大学敷地内における不慮の事故および通学途中・施設間移動中における交通事故等が発生した場合に対する補償制度です。

本研究科では、大学院在籍中により安心して研究活動を推進できるよう学生教育研究災害傷害保険（通学中等傷害危険担保特約保険含む）Bタイプおよび医学生教育研究賠償責任保険（医学賠）に全員加入しています（費用は本研究科が負担しています）。

## ■【大学安全対策室】が設置されました

「大学安全対策室って何するところ？」から始めたいと思います。

まず設置になった背景には、平成21年1月に総合研究棟の研究室で薬品ビンの破損のため発生したガスによりフロア閉鎖という事態になったことがあります。文部科学省からも毒物劇物等試薬の適正管理を求められており、本学での安全を確保するために平成21年6月に大学安全対策委員会が設置されました。この委員会には、さらに薬品管理小委員会、感染対策小委員会、個人情報小委員会3つの小委員会が種目別小委員会として組織されています。それぞれの小委員会で本学での最善の安全確保が検討された後、大学安全対策委員会への報告・承認となります。承認後は理事会及び教授会への報告をいたします。

このような上記委員会及び小委員会をサポートし、安全の確保と推進をすることが大学安全対策室です。

人員は室長・副室長・管理職・事務員の4人となっています。具体的には平成21年9月に薬品管理小委員会から案件「各教室へ毒物劇物保有状況及び薬品管理者の選出に関するアンケート」を配布、感染対策小委員会からの案件「学生に対するインフルエンザ対応について」を取りまとめました。

今後の取組としては毒物劇物管理の適正化・安全に対する教育及び研修会実施等を予定しています。

さらに、コンプライアンス委員会等の各種委員会とも連携しながら安全確保を目指します。

また、病院安全対策室とは別組織で、直接法人に属し、独立して活動しておりますが、今後病院安全対策室とも情報共有を計って行こうと考えています。

まだまだ産声を上げたばかりの部署ですので皆様のご指導及びご協力をよろしくお願いいたします。

連絡先 総合研究棟6階 内線3404・3405 PHS 6420



前列左から 室長河野公一教授、岡田仁克専門教授  
後列左から 福田謙二課長代理、芦田恵美事務員

## ■ハワイ大学メディカルスクール及びアムール医科アカデミー学生の本学研修について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成21年6月29日から7月10日までハワイ大学メディカルスクールの学生3名（第1学年のErina Matsumotoさん、同Brad Kamitaki君、同Daniel Sugai君）が、また7月3日から17日までアムール医科アカデミーの学生4名（今夏卒業予定Alexandr Agarkov君、第3学年Dmitry Kurchenko君、同Veronika Pushkarevaさん、第2学年Darya Vikhrevaさん）がEvgeny Borodin教授の引率のもと、それぞれ相互交流協定に基づいて本学附属病院および北摂総合病院などで研修を受けました。



両大学の学生たちはオリエンテーション・学内見学の後、予めリクエストのあった診療科に本学5年生のクリクラおよびBMLのカリキュラムにあわせて配属されました。

学長室にて：手前左からハワイ大学メディカルスクールMs.Erina Matsumoto、竹中学長、Mr.Brad Kamitaki  
後列左から Mr.Daniel Sugai、河野センター長

ハワイ大学の学生は前半はリハビリテーション医学、脳神経外科、形成外科、小児科、産婦人科、一般・消化器外科で、また後半は神経精神医学、胸部外科、麻酔科および北摂総合病院での研修を受けました。アムール医科アカデミーの学生は前半は口腔外科、第3内科、産婦人科、第1内科、一般・消化器外科で、後半は臨床検査医学、脳神経外科、北摂総合病院での研修でした。

学生達は研修期間中に高槻市長表敬訪問や、国際シンポジウムへの参加、また本学学生との様々な交流を行うなど、充実した2週間を過ごしました。

このたびの研修に際し、ご指導いただいた竹中学長をはじめ本学教職員各位、北摂総合病院の木野院長やスタッフの皆様、また終始エスコートしていただいた5年生、国際交流部を中心とした学生諸君に対しあらためて御礼申し上げます。

以下にハワイ大学、そしてロシアアムール医科アカデミーの学生からのメッセージをご紹介します。

### <ハワイ大学メディカルスクール学生3名から>

#### Brad Kamitaki

大阪医科大学の皆様、プログラムでの二週間、本当にありがとうございました。少し体調を崩す時もありましたが、とても良い経験をすることができました。例えばオベを初めて拝見できましたし、色々な患者さんのケースを見ることができましたが、やはり日本の医療システムを直に経験できたのが私にとって一番貴重なことであると思います。医療方法や患者さんと医者との関係などにおける日本とアメリカの近似点・相違点も、少しは理解できるようになりました。

私は子供の時から日本語を勉強しており、大学で日本語を専攻したのですが、やっと日本への興味と医学への情熱を関連付けることが出来て、非常に嬉しく思います。ハワイに帰ってまだ二週間しか経っていないのですが、また日本に行って、大阪医科大学の皆様と会える日を楽しみにしております。

最後に、大阪医科大学の皆様と中山センターの河野先生、今尾さん、小川さんのご親切には心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



## Erina Matsumoto

I expected to see a lot of familiar sights on my trip to Japan. I was born in Osaka and visited Japan several times since I moved to Hawaii. However, my visit to Osaka Medical College in Takatsuki was filled with many more new experiences than old ones. I experienced so many “firsts” at OMC and I am so grateful to have had the opportunity to visit such a prestigious hospital and medical school in Japan.

While at Osaka Medical College, I was able to observe many surgeries. I had never been in an operation room before, so

this was a first for me. I observed an open-heart neonatal surgery, hysterectomy, knee replacement, and laparoscopic colectomy. I even had the opportunity to scrub in on one of the surgeries to remove a patient’s lymph node. I was able to resect the incision while the surgeon cauterized. One of the most remarkable things I observed at OMC was a birth. It was an amazing experience that I will not forget. I also observed an esophagogastroduodenoscopy. I found it interesting how quickly the procedure was performed and that no anesthesia was used. Patients in Japan receive EGD’s on a regular basis which is not the case in the US. The physicians at OMC were all so nice and patient. I really appreciated how they took the time to explain the procedures and techniques they used in a way we could understand. They encouraged us to ask questions and let us get involved.

I also had many new cultural experiences during my stay in Takatsuki. During our visit to the nursing school, we were invited to participate in a traditional Japanese tea ceremony. We were instructed on how to sit, receive the tea, drink the tea, and consume the wagashi. It was a serene and delightful experience. One the medical students invited us to one of her kyudo, or Japanese archery, practices. Through observing, it was apparent that this sport required a lot of discipline and practice. It was also very ceremonious and spiritual. After watching the students perform, we were able to try it ourselves. It was very difficult but fun. We also had the opportunity to visit Kyoto on the weekend. I had never been to Kyoto before. We visited the Kinkakuji, Ryoanji, Sanju-san gendo, and Kiomizu tera temples. They were all so beautiful. During the weekend, the students also took us to the aquarium in Osaka. The aquarium was the largest and most amazing aquarium I had ever been to. I saw a whale shark for the first time. The OMC students were so nice and hospitable. I made many lasting friends in Japan.

Another memorable experience I had at OMC was the International Symposium which took place on the final night of our stay. We had the opportunity to make a presentation about JABSOM and the medical school system in America. I also learned a lot about the medical education system in other countries such as Japan, Russia, Egypt, UK, China, and Thailand. The symposium was a great way to learn about medical schools in other countries and speak to other medical students. After the symposium, OMC held a wonderful farewell party for us. It was a special night where we could say goodbye to all the physicians and students that we had grown close to while enjoying fabulous food



北摂総合病院にて：木野昌也院長と

and drink.

I feel so lucky to have had the opportunity to visit OMC. It was such a fun and educational trip. I have made so many life-long memories and friends. The hospitality of all the people we met in Japan will stay with me forever. I cannot wait to visit Japan again.

### Daniel Sugai

Before my first trip to Japan in the summer of 2009, my excitement about my medical trip was 100% due to the fact that I had no idea what to expect. In retrospect, I can say that it has been a very valuable and humbling experience. During the two weeks I spent at Osaka Medical College (OMC), I saw medicine in a whole new perspective. My inaugural journey to the origins of my ancestry revealed how detached and unaware I was of Japanese culture. Moreover, this trip showed how that culture plays a huge role in the way Japanese doctors approach and treat their patients.

I cannot express how accommodating OMC was to our interests and needs. Because I am interested in surgery, Ms. Kumi Imao from the OMC Nakayama Center organized an exciting schedule for me to shadow a variety of surgeons including abdominal, plastic/reconstructive, gynecological, cardiothoracic, orthopedic, and oncological surgeons. Each day at the school's hospital was an action-packed, 8-hour day and I routinely took notes throughout the shift in order to remember everything that I was learning. During my plastic surgery rotation with Dr. Nuri, I had a tablet handy to sketch out the various places to harvest skin flaps and where to possibly implant them. During my cardiothoracic surgery/anesthesiology rotation with Dr. Nemoto and Dr. Doi, I was able to observe the surgical correction of a congenital heart disease one day and follow-up on the patient in recovery the next day. In gynecological and abdominal surgery with Dr. Yamashita and Dr. Tanigawa, I observed various laparoscopic and laser procedures and was very excited to review the medical knowledge that I retained from my first year of medical school.

My experience was not completely a surgical one. I had rotations through ultrasonography with Dr. Aomatsu where I was able to learn how to maneuver the ultrasound scanner and became comfortable with recognizing various organs and vasculature structures via ultrasonography. On the day when I shadowed an OB/GYN physician, I was fortunate enough to witness a live birth. I also shadowed pediatric neurologists (Dr. Shimakawa's team) and will always remember it as a very heartbreaking experience. That day, the neurologists introduced me to numerous patients with severe epilepsy who had violent seizures on a daily basis. I met other patients with progressively degenerating neurologic diseases. I can honestly say that I was affected the most during this rotation and realized how special pediatric neurologists were since they dedicated their lives to treating these children. I was extremely humbled by



大阪なんばにて：ハワイ大学学生、アムール医科アカデミー学生と教授、本学の学生たち

this rotation and will always remember the lessons I learned that day.

My first trip to Japan was amazingly fruitful and I am proud to say that I came back home with many notes, pictures and memories. I have made lifelong friends with many of the OMC medical students who also took very good care of us during our stay. Seven of these OMC students are visiting our Hawaii campus in August, and we will take excellent care of them during their stay in Honolulu. Let the good times keep on rolling!

The staff at OMC was also amazing and extremely generous in taking us out to numerous dinners in Kobe, Kyoto, Osaka and Takatsuki. The culmination of this trip ended perfectly with the international symposium where we also had the chance to interact with students from Russia, China and Egypt.

It was a humbling experience since it became apparent to me how much more I need to learn about medicine, other cultures, languages and just being exposed to unfamiliar hospital settings and patients from different cultures. I cannot express how grateful I am to have the opportunity to not only go back to my ancestral roots but also see it from a medical perspective; a perspective that not any regular tourist could ever experience.

### <ロシアムール医科アカデミー学生4名から>



内科外来にて花房病院長と：1列目左よりアムール医科アカデミー  
Ms.Veronika Pushkareva, Mr.Alexandr Agarkov, Prof.Evgeny Borodin  
2列目左よりMs.Darya Vikhreva, Mr.Dmitry Kurchenko

ASMA students, Alexandr Agarkov, Dmitry Kurchenko, Veronika Pushkareva and Darya Vikhreva

It was a good time that we spend in Japan. We were surprised by it's culture, people's hospitality and hi-tech development.

It was our first time visiting Japan and OMC. We were impressed and sometimes shocked by new modern techniques and equipment in hospitals and student's classrooms. We are thankful to the doctors of OMC, the staff of OMC, OMC hospital, NICMC and Hokusetsu General Hospital. They

gave us very interesting and useful information, answered on our questions and were kind and hospitable.

Also thanks to OMC students. They became new good friends for us.

We enjoyed the programs. We saw and understood the system of medical care and medical education in Japan and now we can say that it's one of the best systems. We were impressed by surgery operations that were performed in clinics. Some of them were rare not only for us, but for doctors, and we are very thankful for this opportunity to have such experience.

We hope, that it wasn't our last time visiting this wonderful country. These 2 weeks will be unforgettable for all of us. We met a lot of friends and spent pleasure time with them. THANK YOU VERY MUCH.

## ■第9回国際交流シンポジウムを開催して

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

中山国際医学医療交流センターでは、文科省・私立大学特別補助を受けて毎年1回7月に学生を中心とした国際交流に関するシンポジウムを開催してきましたが、今年は7月10日(金)に第9回国際交流シンポジウムが行われました。

今回のシンポジウムは「各国の医学教育・スクールライフ・文化を学ぼう」をメインテーマに、米国、ロシア、中国、エジプト、オーストラリア、タイ、英国、日本の8カ国の医学生、大学院生・ポストクの参加を得て開催されました。

米国からは5年前よりPBL tutorial教育や臨床実習に関する交流協定に基づき、昨年同様本学で研修を行ったハワイ大学メディカルスクールの学生3名(Erina Matsumotoさん、Brad Kamitaki君、Daniel Sugai君)が参加しました。ロシアからは7年前より相互に夏期病院研修を実施しているアムール医科アカデミーの学生4名(Alexandr Agarkov君、Dmitry Kurchenko君、Veronika Pushkarevaさん、Darya Vikhреваさん)の参加を得ました。中国からは現在本学脳神経外科大学院生のWei Sunさん、エジプトからは本学消化器内科リサーチフェローのUsama Mohamed Abdelaalさん、また本学を代表して5年生の川西彩加さんが発表を行いました。オーストラリアからは、海外選抜臨床実習を本学で行う予定のオーストラリア国立大学医学部のPeter Sturgess 君、同じくイギリスからはリーズ大学医学部のAna Kanthabalan さん、またタイからは本学との交流協定に基づいて1月に来訪したマヒドン大学医学部シリラート病院4年生のChairat Sriphirom君とNapat Saigosoomさんがビデオでの発表(彼らの本学での研修中にあらかじめ録画撮りしておいたもの)を行いました。

シンポジウムは、交流センター運営委員で、大学院委員長である米田博教授の座長進行により行われました。発表内容は、各国の医学教育のシステムや、医師免許取得に至る仕組み、さらにスポーツクラブや文化活動などの学生生活等、お国柄の違いも反映された素晴らしいものばかりで予定時間の2時間があっという間に過ぎました。特に質疑応答ではコメンテーターとして参加していただいたロシア・アムール医科アカデミー引率教授のEvgeny Borodin教授やハワイ大学医学教育センターのRaymond Tabata氏、フロアーの学生諸君による活発な討論は、引き続いて開催された本学食堂での意見交換会にまで続き、学部学生や大学院生による国際交流を育むとともに英会話能力やコミュニケーションスキルの向上に資するというシンポジウムのもう一つの目的は十二分に達成されたことを実感しました。

この国際シンポジウムは年々参加国も増加し、発表内容も多彩でそれぞれ創意工夫がみられ、大変有意義であったとともに、ご助言ご助力をいただいた教職員各位、学生諸君にこの場をお借りして感謝申し上げます。

以下、本学代表の学生、川西さんの感想をご紹介します。



## ■国際シンポジウムに参加して

5年生 川西 彩加

「医学教育、学生生活、文化。15分で自由にお話して下さいね。」

今回大きなテーマをいただき、多くの方々にお世話になりました。母校の教育システムについて話し合い、茶道やその根底にある禅について考え、どう伝えようか苦心した経験を通して、新たな発見がたくさんありました。このような素晴らしい機会を頂き、中山国際医学医療交流センター並びに諸先生方に心より感謝致します。

留学生によるプレゼンテーションは興味深いものばかりでした。ハワイでは志望する科によって要求



国際シンポジウム：3列目左より4人目が川西さん

される成績が異なることに驚き、ロシアは発表者2名共に活発な女の子で、女医の未来を頼もしく思いました。上海の発表者からは発展しつつある中国の巨大なエネルギーを感じ、またUKの音楽ありDanceありの発表に魅せられました。オースト

リアの自然に癒され、タイでは医学生の使命感の強さが伝わりました。エジプトの研修先に日本が大人気だと知りうれしく思いました。

国ごとに違う学生のカラーは、教育はもとより、文化や社会システム、経済発達まで様々な要素に起因しています。世界を知ることは自分を知ること。実りある国際シンポジウムに来年も多くの学生が参加することを願います。

## ■2つのハワイ大学夏期短期研修派遣について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

本学との交流協定に基づき、毎年3月に行われているハワイ大学での学生向けワークショップに加え、今回は8月17日から21日まで、Hawaii-Style PBL Workshop が開催されました。本学からは6名の学生諸君（3年生の鈴木雅貴君、4年生の根来孝義君、中野和俊君、浜畑好昌君、赤松加奈子さん、5年生の森田充紀君）が参加しました。

また、今夏初めて過去ハワイ大学ワークショップ参加経験者向けファシリテーターを養うPMEEA Medical Student Leadership Development Instituteのワークショップが開催される予定でしたが、諸般の事情により急遽中止になりました。そのため参加予定をしていました5年生松浦広昂君の強い願いもあり、今回ハワイ大学から個別対応のカリキュラムを作成していただき研修を行いました。同センターのカスヤ教授らによるリーダーシップセッション、ハワイ大学提携病院であるクアキニ病院のDr. Machiによる指導、さらに本学出身で現在Queen's Medical Center 臨床病理医の笹田医師のガイダンスなど多岐にわたる研修になりました。

以下に学生諸君のワークショップに参加した感想を述べていただきました。

## ■海外に学ぶ Teaching is learning

5年生 松浦 広昂

「日本では1：3、アメリカでは3：1、さて何の割合でしょう？」

今回のハワイ大学の研修の一对一の授業で先生にされた質問です。今回の研修は大阪医科大学からは

もちろん他大学や他国からも含めて学生は自分一人でした。もともと10人少々で受ける予定だったのですが、幸か不幸か一人で研修を受けることとなり、そのスケジュールも当初用意されていたものと大きく違うものとなりました。しかしそのお蔭で、授業だけでなく多くの先生と一対一で話す機会を得、病院見学も出来、ハワイ人の生のPBLを見学させていただき…かえって充実したものになりました。この研修の概要自体は参考になりませんので、今回は印象に残ったお話をいくつかご紹介したいと思います。



カスヤ先生のPBL個人レクチャーにて

さて、冒頭の質問も印象に残ったものの一つですが、実はこれは教育における学生对先生の人数比です。約10倍の教師数の差は医学における教育の位置づけの違いを如実に表わしているように思います。日本では医学は臨床と研究に大別されますが、海外では臨床・研究・教育が柱になると言われています。むしろ教育は長い目で見て臨床や研究という柱を形作っているといった表現がより近いように感じました。日本では「外科で言えば、手術が上手な外科医をよく褒めます」が、アメリカでは「手術を指導するのが上手な外科医を褒めます」し、指導医として認められることを誇りとしているようです。また、医学生が実習で担当する患者には“You will be a teacher.”と言って教育をお願いし、多くの患者はこれを積極的に受け入れるようです。文化としてシステムとして教育が医学に根付いていることが窺えると思います。

なぜここまで教育が盛んなのかというと、大きくわけて二つ理由があると思います。一つは教育に対して報酬があるということ。もう一つは教育することで自分も成長するという認識があることです。“Teaching is learning”という言葉は研修中頻繁に耳にしました。これはPBLの概念にもあることですが、とにかく受動的に受け取っただけの知識は残らず、定着させるためにはそれを自分でまとめ直して人前で発表するというのが何よりも近道だということです。発表している最中に一つ一つがつながって整理される感覚や下の学年から投げかけられる質問や発言が自分にはない発想を提供してくれたという経験も、教える側にたった人なら皆実感したことがあるはずです。

報酬に関してはそう簡単に変えられないと思いますが、“Teaching is learning”の認識はカリキュラムや指導者のやり方次第で普及させられるのではないのでしょうか。例えば、これはハワイ大学でも日本の一部の大学でも行われていることですが、「PBLの学生チューター」もその一助になるはず。5回生に3回生のチューターをやらせれば、下には下手なところは見せられないと頑張る気もするし、一旦やってみると自分の理解も意外と深まったと味をしめる学生も出てくるように思います。医師と違って時間があるのも利点です。ハワイ大学でもPBLは3時間かけてじっくりやっており、本来は本学でも回数を週2くらいに減らしてでもある程度まとまった時間を取って行くべきです。それにはまとまって時間が取れるチューターが望ましいのです。

今回の研修は熱意溢れる先生方の教育にどっぷり浸かった一週間でした。私一人のためにこの研修が実現されたこと自体が何より象徴的であると言えるでしょう。この研修の実現にあたり大阪医科大学・ハワイ大学の先生・スタッフの方々、ハワイのクイーンズメディカルセンターで見学させていただいた本学卒業生の笹田寛子先生、また特に自分だけのために一からスケジュールを練り直して下さったカスヤ先生、レイさんに対する感謝は筆舌に尽くしがたいものがあります。ありがとうございました。

## ■ハワイ大学ワークショップに参加して

5年生 森田 充紀



ハワイ大学学生の学習項目レクチャーにて：手前から2人目が森田さん

この夏、私はハワイ大学でのPBL (Problem-Based Learning) ワークショップに参加させていただきました。今回は日本だけでなく台湾の大学からも参加しており、世界各国の医学生からいろいろと刺激を受けることができました。本学は積極的にPBLを取り入れておりますので、今後のPBLをより良いものにしていくためにも非常に有意義なワークショップであったと思います。

ハワイ大学でのPBLでは多くの仮説が挙がり、必要事項で得た病歴や身体所見などを仮説にフィードバックをしながら進められていくので、より実際の臨床に即して学べるように感じました。

単なる学習項目を挙げる作業ではなく、良き臨床推論のトレーニングの場として役立つように思います。また、活発な討論から出された学習項目の内容は幅広く、特に解剖学や生理学などから考えることが重視されています。学生はよく勉強しており、発表もすばらしいものでした。本学のPBLと比べ、もちろん双方に長所・短所はありますが、まだまだ多く学び、取り入れるべきものがあると感じました。微力ですが、学んだことを学内にフィードバックすることでより良いPBLをみんなで作っていききたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました先生方とスタッフの方々、また援助していただきましたPA会の皆様に心から御礼申し上げます。



## ■ハワイワークショップ感想文

4年生 根来 孝義

8月16日から1週間ハワイ大学のワークショップに参加させていただきました。今回は例年春にあるワークショップと異なり、PBLが中心で、少しclinical reasoning exercise (臨床推論) がありました。参加大学は大阪医科大以外に佐賀、高知、慶応、浜松など、そして台湾の大学からも学生が来ていました。中にはPBLを全くしていない大学もありましたし、その一方で台湾の生徒は英語でPBLをしているそうです。その中でも本学の学生達は結構PBLについて詳しい知識と経験をもっている方でした。ただ、どちらかと言えば今回のワークショップはPBLをあまり知らない学生向けで、PBLのやり方、目的などの講義が結構ありました。僕たちにとっては改めて、もしかしたら初めて、PBLとはどんなものなのか



を考えさせられました。

僕にとっては初めての海外ということもありいろいろ緊張していましたが、ワークショップは全体を通して楽しめました。行く前には先輩方にハワイ式のPBLを教えていただき、またハワイに関する情報をたくさん教えていただきました。本当に感謝しています。そういう訳で、多少英語の説明が聞けなくても大丈夫でした。ただ学習項目を調べて発表することには苦労しました。自分の英語力のなさを実感しました。

今回は1週間だけでしたが、とても充実した1週間だったと思います。向こうの学生はすごくまじめにPBL、勉強をしていますし、先生方もすごく熱心にPBL、学生の教育に取り組んでいました。僕らが日頃しているPBLとは大きく違っていました。本学のPBLはハワイを基にしていると聞いたことがありましたが、実際はハワイとは全然異なったものになってしまっている気がします。ハワイのPBLを見てきた僕たちが、先生方と一緒に本学のPBLをもっといい方向に変えていかなければならないと正直なところ思っています。

最後になりましたが、河野先生をはじめとする先生方、今尾さん、またハワイ大学でお世話をしてくださった皆さん、どうもありがとうございました。



## ■ハワイ大学ワークショップに参加して

4年生 中野 和俊

今回僕たちはIntroduction to PBL Student Workshopに参加させていただきました。このワークショップは日本の学生へのPBLの紹介という趣旨で行われ、本学だけでなく各地方から参加者がいました。ハワイ大学のPBLにおいて感じたことは

- ①PBLの特徴である「個々の疾患について知らなくても病態生理から推論して仮説を出す」という点がよく活かされ、活発な議論が行われていたこと
- ②学習項目が単一の疾患や検査の学習ではなくその周辺も含めた総合学習になっていること
- ③チューターの介入がうまく、生徒に自ら考えることを促し続けていること

の3点でありました。この3点に関しては、PBLの特徴と目的、手法が広く学生、教員に浸透していることが原動力になっています。本学でも簡単な「PBL学」のような授業、テストを行うことによってPBLについての知識を浸透させてもよいかと思います。

また、PBL以外では参加者の日本人学生の方から多くのことを学びました。皆さんよく勉強されており、考え方、価値観、細かい手法についても参考になったことがたくさんあり、本当に参加してよかったと感じました。

最後に今回尽力してくださった河野教授、芝山教授、鈴木教授、今尾さん、中山国際医学医療交流センターの皆様、関係各位の皆様、ハワイ大のMargitさんRayさん、Omori先生およびお世話になった先生方に御礼を申し上げます。貴重な機会をいただきありがとうございました。



PBLレクチャーにて：左側が中野さん



## ■ハワイ大学PBLワークショップに参加して

4年生 赤松 加奈子



この度私は8月16日から21日にハワイ大学にて開催されたPBLワークショップに参加させて頂きました。

ハワイ大形式のPBLは本学のPBLと異なる点が多く、私達にとって非常に興味深いものでした。特に、臨床に即した手順で、いきなり検査事項を必要事項に挙げるのではなく問診をとるところからシナリオを進めてゆく点、仮説を挙げる際考える過程が重視される点、またチューターが学生の意見を引き出す姿勢や学生が積極的に発言し議論する様子などが印象的でした。

今回のワークショップを通じて、自ら学んでいく姿勢Active learnerであることの重要性を感じました。また、日本の他大学の学生や台湾からの学生とも交流することができ、お互いに良い刺激を与えモチベーションを高めあうことができました。今後、この経験を活かし勉強に積極的に取り組み、勉強会などを開きこのワークショップで学んできたことを皆さんに知ってもらいたいと思います。

最後になりましたが、今回のような貴重な経験をさせて頂く機会を与えてくださりご尽力いただいた、河野教授、鈴木教授、芝山教授、中山センターの今尾さん、PA会の方々、ハワイ大学のDr.Jill Omori、Margitさん、Raymondさん、関係各位の皆様には厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。



## ■PBLワークショップを終えて

4年生 浜畑 好昌

今回のワークショップでは、PBLに重点をおいて学ばせていただきました。PBLに関する講義、ハワイ大学の学生によるPBLのデモンストレーション、その後実際にハワイ型のPBLを体験、Learning Issueの作成と発表もあり、とても内容の濃い一週間でした。

ハワイ大学と本学のPBLにはいくつかの違いがあり、大変勉強になりました。こういったハワイで学んだことを本学に還元したいと強く感じています。

日本から他の医学部の学生も来ていて、皆それぞれ個性的で才能に溢れた人達でとても刺激を受けました。また、日本人の先生やレジデントの方達のお話を聞く機会があったのですが、先生方の話はとても興味深く、自分の将来の医師像を考えさせられました。

こういった貴重な経験をさせて頂いて本当に感謝しています。河野教授、芝山教授、鈴木教授、宮本先生、中山センターの今尾さん、PA会の方々、諸先生方、本当にありがとうございました。



## ■ハワイ大学ワークショップ報告

3年生 鈴木 雅貴

8月16～21日までハワイ大学主催の“Introduction to Problem-Based Learning Student Workshop”に参加しましたので報告させていただきます。

今回の実習はPBL(Problem-Based Learning)の体得に重点を置き、効率的なPBLの仕方を学びました。参加者の中にはPBLを一度も体験したことがない人もいましたが、彼らもすんなりとPBLを理解し、楽しみながら学習していました。私はこの様子を見て、PBLとは単なる学習様式の一つであって、それこそが最終目標ではないと思いました。つまり、PBLの仕方を学ぶことが私たちの目的ではなく、PBLを通して生涯学習していく習慣や癖を身に付けることが目的だと感じました。実際医者になってからも学ばなければならないことは多く、その時に必要な知識は誰かが講義してくれるわけではありません。自分自身の力で何が問題であるか、何を学ばなければならないかを知り、そこから学習をスタートする。この過程がとても大事であり、PBLを通して学べることだと思います。今回のWSでは、そのような学習者のことを“active learner”と呼んでいました。ハワイ大学のPBLを学ぶことで、私も“active learner”に近づけたのではないかと思います。

最後に今回のWSの実現に尽力してくださった河野教授、芝山教授、鈴木教授、中山センターの今尾さん、PA会の皆様、そして快くハワイ大学で私たち学生の受け入れをしてくださったMargitさん、Rayさん、Omori先生およびお世話になった先生方と学生方に心から感謝致します。大変貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。



## ■韓国カソリック大学教授来訪について

教育機構 専門教授 出口 寛文

平成21年9月17日、韓国カソリック大学(The Catholic University of Korea)からSun Kim教授ほか3名の教授陣が教育機構・中山国際医学医療交流センターを訪問されました。同大学は現在カリキュラムの改編中で、そのため本学の先進的な教育内容を参考にしたいとの要望があり訪問が実現したものです。同大学のPBLは一部診療科のみの限定的なPBLに過ぎず、次年度からは本学と同様のシステムを考慮しているとのこと



中山国際医学医療交流センターにて  
左より教育センター・宮本講師、Nam Jin Yoo教授、Sun Kim教授、Joo Hyun Park教授、Soo-Jung Lee教授、教育機構・出口専門教授、中山国際医学医療交流センター長・河野教授

です。特にPBLの在り方には興味を示され、詳細な説明が求められました。中山国際医学医療交流センターでは、河野教授、宮本教育センター教員の歓迎も受け、クリニカルクラークシップでの日韓交流に話が及び、大変盛り上がりました。

第2回 患者さま図書サービス

# 本の寄贈 お礼とお願い

## 病院ボランティア支援委員会

教職員の皆様には、ご寄贈いただきありがとうございます。厚くお礼申し上げます。今後も、ボランティア活動にて患者さま図書サービスを継続いたします。引き続き、寄贈をお待ちしております。



◆ ボランティア室の場所  
1号館4階 エレベーター前



### 第1回 寄贈数

1275 冊 平成21年8月末現在

◆ ボランティア室からの報告◆  
図書専従のボランティアさんの応募があり、7月より活動されています。

◆ 本の種類◆  
一般図書(文庫本・マンガ含む)  
児童書(絵本含む)  
家庭医学書

◆ 事前にご連絡をお願いします。  
◆ 時間: 毎日 15:00~16:00  
◆ 持ち込み場所: ボランティア室



お問合せ: ボランティア室 内線2515  
または 小野 (PHS 6533)・船橋 (PHS 6732)

病院7号館1階にて

# 医学教育指導者フォーラム報告書

## 第21回 医学教育指導者フォーラム開催

- 趣 旨 大学医学部における医学教育の改善ならびに教育研究組織の円滑な管理運営に資するため、医学教育について責任ある立場にある方の参加を得て、医学教育の様々な問題について情報の交換ならびに討論を行う。
- 主 題 「臨床実習の在り方」
- 主 催 財団法人 医学教育振興財団
- 期 日 平成21年7月28日（火）
- 場 所 東京慈恵会医科大学 大学1号館講堂

上記フォーラムに出席されましたキャリア形成支援センター長・近藤敬一郎専門教授、教育機構・出口寛文専門教授、総合診療科・浮村聡専門教授の報告書をここに掲載致します。（学長 竹中 洋）



## ■第21回 医学教育指導者フォーラム報告書

キャリア形成支援センター長  
専門教授 近藤 敬一郎

梅雨も明けやらぬ7月末に、学長からご指名頂き上記フォーラムに出席致しました。私は前日から東京入りしておりましたが、当日は曇りながらも降雨はなく、どんよりとした蒸し暑い日でした。会場は東京慈恵会医科大学1号館講堂で、新しく大変立派な建物でした。

フォーラムは医学教育振興財団理事長で自治医科大学学長の高久史磨先生の穏やかながらも切迫した開会の辞で開会されました。高久先生のご事は「臨床研修制度のあり方等に関する検討会」の座長をしておられ、急先鋒の方々と丁々発止と激論を闘わせておられた報告（厚生労働省HP）を目にしていたことから、旧知の仲の様な気がしておりました。ただ文章からの印象と異なり、非常にもの柔らかくお話しになられるので、益々好感のもてるお人であると思いました（下図左）。



午前中のセッション講演1は英国University of East Angliaから来日されたSamuel Leinster先生（上図右）の“Undergraduate Clinical Education in the UK—Current Approaches and Challenges—”というテーマで、英国における教育システムの改革などをお話下さいました。同時通訳もあり良く理解することが出来ましたが、英国に於ける医療制度と医学教育の陰と陽の部分が垣間見えたことが有意義で

した。

昼食を終えた後、講演2として旭川医科大学学長の吉田晃敏先生から「旭川医科大学が推進する臨床実習改革—変貌する初期臨床研修制度を踏まえて—」とのタイトルでご講演頂きました。その内容は、旭川医科大学では自学に残る卒業生が年々減り始め、2003年の52名から2007年には10名まで減ってしまい、吉田先生が学長就任以来、多くの改革を実行されて来られたということでした。結果として今年は26名まで改善させたこと理由として、在校生、臨床研修医、専門研修医および大学人を元気にさせたことと結論づけられていました。中でも臨床実習の形骸化を改善するためにCBT+OSCE合格者(4年生)に学生免許を発行して、積極的に医療行為をさせているというカリキュラムでした。これは私が立ち上げようとしているシミュレーションセンター構想にぴったりの内容で、おおいに勇気づけられました。そして現行の国家試験のために6年生が座学中心になってしまっているという弊害を指摘し、縮小筆記国家試験の提案なども印象的でした。(下図左)



コーヒーブレイクの後、総合討論：臨床実習の在り方と題して、佐賀大学総合診療部の小泉俊三先生、自治医科大学の梶井英治先生、国立国際医療センターの初期研修医、平 明日香先生、沖縄県立中部病院の尾原晴雄先生から話題提供がありました。所属病院や地域の問題点や、留学先での教育方法などを拝聴しましたが、いずれも大変貴重な経験をお話下さり有意義でした。(上図右)

残念ながら、レセプションには出席出来ませんでしたが、多くの大学や医療施設で医学教育について悩み、試行錯誤しておられることを知り、どこかで安堵する気持ちがあることに気付かされました。それだけでも収穫はあったと思うのですが、何より嬉しかったことは、今私が目指しているメディカルトレーニングセンターが方向性として間違っていないことでした。先日大阪市内で開催されました医学教育学会で得た情報では、全国の医科大学または医学部で、既にシミュレーション・ラボを有している施設は80%に達しているとのことでした。大阪医科大学に於きましても一刻も早くセンターを立ち上げ、医学生はもとより、看護師、研修医、勤務医師、開業医、コメディカルを対象としてコミュニケーションとスキルを学ぶ空間を作りたいと考えております。



## ■第21回 「医学教育指導者フォーラム」に出席して

教育機構  
専門教授 出口寛文

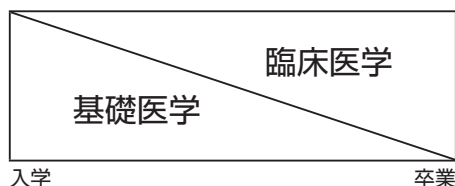
2009年7月28日に財団法人 医学教育振興財団の主催で第21回 医学教育指導者フォーラムが開催され

# 医学教育指導者フォーラム報告書

た。この会議は医学教育に責任ある立場の教員が参加し情報の交換ならびに討論を行うもので、今回の主題は「臨床実習の在り方」であった。本稿では、フォーラムの概要に触れるとともに、本学の医学教育について若干の私見を述べたい。

## 1. フォーラムの概要

最初に英国East Anglia大学 (UAE) S. J. Leinster学長が“Undergraduate Clinical Education in the UK-Current Approaches and Challenges”のタイトルで基調講演を行った。UAEは東部Norwichに位置する大学で、2002年に医学部が新設されたばかりである。外科出身の学長の下で最新の医学教育が実行に移されている。1年生のカリキュラムは基礎医学が主体であるが、すでに臨床医学が始まり、高学年に進むにしたがって徐々に臨床系科目が増える統合型カリキュラムである（ケンブリッジやオックスフォードなどの伝統校は2年間の基礎医学+3年間の臨床医学教育に分けられている）。具体的にはコミュニケーションなどのスキル教育も1年次より開始される。大学病院はもとより、近隣の病院、診療所で毎週1日は臨床実習を行う。“Experience”、“Reflection”、“Learning community”など日常的に患者に接することで得られる省察的な学びが重視されている。このような卒前医学教育は、General Medical Council（英国医事委員会）や英国医師会の医学教育プログラム「Tomorrow's Doctor」によって質が担保されるシステムとなっており、言い換えればその到達度によって各大学は評価されているとも考えられる。なお、英国には医師国家試験はなく、外部評価者と共に学生を評価するFinalsと呼ばれる卒業試験で代用されている。



旭川医科大学 吉田 晃敏 学長は「旭川医科大学が推進する臨床実習改革」と題して基調講演を行った。まず、入試制度改革では、2009年度は北海道特別枠50名（定員の50%）を選抜する制度を導入し、高校と医大との連携を深めるためのメディカル・キャンプを開催するなど活発な活動を行っている。この結果、道内出身者は今年度入学者の71%に急増した。また、地域医療の荒廃を阻む対策として、無給医員の道職員への採用など医師の待遇改善、人手不足の診療科への補充、道委託費による診療助教の雇用、復職・子育て支援などを実施した。このような入試改革、指導教員数の拡充を行った上で臨床実習の改革に着手した。従来の臨床実習はコア科の1/2を学外関連施設に委ねていたが、2009年カリキュラムでは5年生の臨床実習は全て大学に戻し、かつコア科に偏っていた教育負担を軽減し各科に配分した。すなわち、内科12週、外科6週、小児・産婦人・精神神経・整形・泌尿器・耳鼻咽喉・脳外・眼科は各2週、皮膚・放射線・麻酔科各1週に改めた。6年生はアドバンス実習I、II、地域医療実習が各4週の内計12週とした。臨床実習の総括評価はポートフォリオ、臨床実習CBT、Advanced OSCEによってなされる。眼科の臨床実習では、十分なシミュレーション教育を施した上で顕微鏡下の結膜縫合を行うなどの学生の医行為が紹介された。最後に国に求められる施策として、①CBT・OSCE合格者にStudent Physicianの資格付与、②Advanced OSCEの実施、③医師国家試験の簡略化などが喫緊の課題であると述べた。

自治医科大学地域医療学センター 梶井 英治教授は自治医科大学の地域医療の詳細を述べた。同大学の学生は47都道府県から入学し、卒後に出身地の公立病院や診療所で地域医療に従事することが義務付けられている。学生は「地域で働く総合医として必要な能力を身につける」ことを目標とし6年間の段階的な地域医療カリキュラムを受ける。早期体験実習（1学年）、介護福祉実習（2学年）、保健所実習（5学年）、院外BSL（5学年全員、4・6学年希望者）が実施されている。このような教育を支えているものは全国を結ぶ地域医療教育ネットワークと地域担当臨床講師であり、ネットワークを統合するために大学総合診療部門の果たす役割が大きいことを強調した。

佐賀大学 小泉 俊三 教授は、1～2年のearly exposure、保健医療福祉施設訪問、診療科配属実習、3～4年のPBL、5～6年の臨床実習を概説した。中でもPBLの形骸化を防ぐためにプロジェクト「実践臨床医養成への問題基盤型学習の実質化」を立ち上げた。これは医学生の自発性を尊重し、教育目的に応じたscaffold（足場）で学習を支え、問題基盤型学習が有効に機能するような改善策である。入学直後から、研修医に至るまでの一貫したカリキュラム（足場）を組み立てることが重要で、基礎と臨床の統合、主要科目をPBLで導入し、後半はCBL（case-based learning）へ移行するなどの取組みが開始された。また、チューターはハワイ方式のactive tutor、専門分野に特化した専門tutorのほか、学生tutorの導入もなされている。

沖縄県立中部病院 尾原 晴雄 医師は英国、沖縄、米国の3施設における臨床実習の経験を述べた。英国バーミンガム大学医学部5年生の臨床実習は診療所実習（GPによるグループ診療を学ぶ）、コミュニケーションスキル実習（模擬患者の問診等を行う半日間週4回の実習）、緩和ケア実習を組み合わせたもので、その模様が紹介された。次いで、中部病院は琉球大学の関連実習施設であり4週間の実習を行っている。診療は指導医、後期研修医、研修医、学生の屋根瓦方式のチーム医療でなされる。入院時診療録記載（上級医の認証が必要）、学生によるプレゼンテーション、学生向けの教育セッションが実施されている。「ある学生の一日」として、朝7時からのプレラウンドに始まり、コアレクチャー、入院時要約作成、夕方の新入院患者回診、夜間の救急室準夜勤までの多忙なスケジュールが紹介された。なお、中部病院では指導医、研修医が多忙なためon the jobの学生教育に限られることやチーム間の教育姿勢にばらつきがみられるなどの問題点も指摘した。ボストン大学の臨床実習はSOCS（Structured observation of clinical skills）およびPT-RIMEによる評価がなされているSOCSは学生が病歴、身体所見を取る現場を指導医が観察しフィードバックされるが、学生はこの記録を11週の実習期間で5枚以上提出することが義務である。さらに実習の最後にはプロフェッショナルリズムに基づくRIMEモデル（R：reporterレベル まず患者情報を集められる段階、I：interpreterレベル 患者情報を解釈できる段階、M：managerレベル 解釈した上で行動できる段階、E：educatorレベル 最終的に他の学生に教えることのできる段階の4レベルの到達度で評価する）で学生は評価される。これらの3施設の経験から、真のクリニカルクラクシップの実現のためには、まず実習終了時の到達目標をあらかじめ明確にしなければならない。次いで、臨床実習の前教育は、病歴・身体所見を取り、診療録に記載し、臨床推論、プレゼンテーションができるような能力を前もって育成する必要がある。実際の臨床実習では大学、市中病院、診療所などの臨床現場で多様な実習を経験し、最終的にAdvanced OSCE等で学生を評価することが重要であると述べた。

## 2. 大阪医科大学の教育システムで検討すべき事柄

各講演で様々な臨床実習の取組が説明され大変参考になった。講演を聴講した上で、少し本学の医学教育を振り返ってみたい。

### 1) 臨床実習前教育

各講演で述べられた医学教育の取組はすでに本学で相当程度実施されている。例えば、早期体験実習や衛生・公衆衛生学実習、PBL、地域医療、Advanced OSCEなどである。中でも衛生・公衆衛生学の実習は介護施設、保健所、市の公共施設、検疫所などの実習を含み、大変優れたものがある。学生の意識も高く1ヵ月にわたる実習はもっと評価されてもよい。しかし、その他の内容に関して、英国East Anglia大学やBoston大学の臨床実習と比較すると本学のカリキュラムは時間数や内容に大きな差があり、改善すべき事柄も多い。本学の早期体験実習は外来エスコート実習や病棟でのチーム医療（患者看護の面が多い）を学んでいる。学生は初めて臨床現場に接することで強烈な印象を受け、一時的に学習のモチベーションは高まるが、期間が短すぎるために効果は限定的である。臨床講座の負担も考慮して弾力的な運用になるが、もう少し大学病院、地域医療現場での実習を加える努力がなされてもよい。例

# 医学教育指導者フォーラム報告書

---

えば低学年を対象とした外来・病棟実習や身体診察やコミュニケーションスキルの学習などがこれに含まれる。このような教育を重層的に行うことで高学年の臨床実習の成果がより高まるものと考えられる。

## 2) 臨床実習

本学の5年生の臨床実習は各講座や診療科まかせとなっており、必ずしも統一したカリキュラムや評価になっていない。今回の講演でたびたび登場したポートフォリオ評価も、誰がどのように行うか、またチェック機能はどこが果たすかなどの取り決めもまだ明確ではない。臨床実習の在り方については全学の講座・診療科横断的な代表によるワークショップを行って、実現可能な方策や方向性について検討すべき時期ではないかと考える。

## 3) 地域医療

地域医療は6年生の選択的臨床実習として取り入れられている。旭川医大もその方向にあるが、5年生で大学病院での実習に引き続いて6年で行う実習として現在の在り方でよいと思われる。ただし、地域医療実習については、学内教員が地域の家庭医療に携わることが少ないため、現状ではほとんど外部の病院任せとなっている。このままでは外部の負担は大きく臨床教授や准教授の称号のみでは疲弊し、やがては限界が訪れることが予想される。診療所実習の場合はさらに教える側の負担は大きいかもしれない。

## 4) 医行為について

先般の医療系大学間共用試験実施評価機構の実施小委員会（7月29日開催）で、共用試験に合格した5年生にStudent Physicianの資格を与えるべきかどうかについて議論がなされた。Student Physician制度は学生の医行為の推進に関する重要なキーワードであるが、当事者であるはずの機構は残念ながらこの制度の実現に消極的である。ただ、その場合に「全国医学部長・学長会議がStudent Physicianの資格を与え、学生の医行為を積極的に推進させる」との考えもあることが表明された。共用試験実施評価機構が資格付与に消極的であるとすれば、全国医学部長・学長会議案は次善の策として大変魅力的である。旭川医大の眼科手術の実例はとても衝撃的ではあったが、これに類する医行為の実現性は本学でも不可能ではない。本学は「淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム」でキャリア形成支援センター 近藤 敬一郎 教授の下でシミュレーション教育の環境整備がなされつつあり、この方面の教育を推し進める絶好の機会にあると考えられる。もちろん、大学病院での医行為については患者の理解と医療安全への配慮が必須であるが、本学は私学でもあり、全国医学部長・病院長会議が一定の方向性を表明すれば、先のシミュレーション教育とともに本学の医学教育の特色のひとつを明らかにするよい機会と思う。



## ■第21回 医学教育指導者フォーラム参加報告書

総合診療科  
専門教授 浮村 聡

今回フォーラムに参加し今後の当大学におけるクリニカルクラクシップの問題点と改善点について以下の如く考え、御提案申し上げます。

大阪医大のクリニカルクラクシップの問題点について

1. 6年次への進級問題の前にクリニカルクラクシップの具体的到達目標がないことが問題と考えます。



2. 以前より学生が患者と接する機会が減少しています。これは医療事故の報道と、教員の教育へのモチベーションの低下、社会環境の変化等の原因により患者と学生の接点について教員そのものが委縮傾向となったことが原因であると推察されます。大阪医大で学生と患者の接点が減少している一方で、欧米では患者が医学生を育てる土壌が構築され、外来、入院を問わず医学生が医療面接や診察のみならず各種処置に至るまで医学生参加の同意が得られる環境にあります。これは医療訴訟の件数とは関連していません。
3. これらにより、熱心でない学生は数時間カルテを写したレポートの作成のみでクリニカルクラークシップを終わり、能動的なアクションのない単に消化するだけのクリニカルクラークシップとなっている現状がみうけられます。

これらの解決としてこれまで大学はFDによる教員の教育に力をいれてきましたが、マンパワーの不足や教員の疲弊等により、十分な成果をあげることができませんでした。従って今後大阪医大が優れた臨床医を排出し、医学教育の分野でその独自性を発揮するためには新たな方策が必要と考えます。その方策のいくつかを以下に箇条書きで示します。

1. 具体的なクリニカルクラークシップの到達目標の設定とその評価法の決定。
2. 各診療科でその内容は自由だが少なくとも担当入院患者の医療面接を行いSOCS (Structured observation of clinical skills) カードを一枚提出することを提案させて頂きたいと思います。
3. 一方で各診療科での必須の検査の習得については忙しい診療科ではDVDを作成してそれを学生に自主的に見せることで省力化をはかることも必要と考えます。また演習として、例えば心電図であれば代表的なものを数十枚プールしておいて、各学生に異なった心電図を数枚を課題として与え、その所見をつけさせ添削するのも一つの方法です。
4. FDは必要ですが、そのみでは達成できないため学生の再教育、すなわちlearner development (LD) を行い、医学生の積極性を引き出すことが必要と考えます。
5. また質の高い医学教育においては患者の協力は不可欠であり、造語となりますが、patient and family development (PFD) すなわち患者が医学生、研修医を育てる土壌を構築することなくしては良い教育は行えません。その機会として意識の高いと考えられる市民公開講座に参加する市民に対して大阪医科大学の医学生や研修医教育に患者として参加してもらえよう訴えていくなどの地道な努力が必要となると考えます。また院内OMC newsに毎号、院長や看護部長に、学生や研修医の外来診療参加への協力を要請するためのコラムを執筆していただくことも有効ではないかと考えます。
6. 一方大阪医科大学としての教育の成果は、研修医やレジデントの教育の成果は臨床的成果、大学院生の教育の成果は研究的成果ともある意味でいえると考えますが、医学生の教育に対する努力を前述の臨床、研究と同様に高く評価することが教員のモチベーション向上のために必要と考えられます。医学生の教育に力を注ぐことがひいては大阪医大のマッチングを増やしマンパワー不足を解消する解決する根本的な解決法であることを教員が自覚する必要があると思います。
7. また当大学でのモチベーション向上のためには優れた講演を拝聴することも重要です。今回のフォーラムの講演者である旭川医大学長吉田先生の講演会の招聘ならびに教授、準教授、講師のそれへの参加の義務化、あるいはDVDの収録をお願いし、DVD上映会を医局単位で行うことを提案します。

これらを実行していくことでより質の高いクリニカルクラークシップを行えるのではないかと今回のワークショップに参加して考えています。



### 4th大阪医科大学BLSワークショップを開催して

大阪医科大学Life Support Club  
医学部 第3学年 岸森 健文

平素はLife Support Club（以下、LSC）に対し格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、LSCでは去る8月30日に、今回で第4回となるBLSワークショップ（以下、BLS WS）を開催いたしました。学内学外から延べ50名の医学生、看護学生、歯学生が大阪医科大学に集まり、残暑厳しい高槻にて、熱い一日が、盛況の中、無事に終えましたことに、LSC一同、安堵している次第です。

LSCでは、年にBLSとICLSのWSを一度ずつ、計2回のWSを開催しています。WSは、参加する学生がインストラクターと受講生に分かれ、「互いに教え合い学び合う」をモットーとする受講生参加型の講習会です。

インストラクターには大阪医科大学だけではなく、広く日本全国から医学生、歯学生、看護学生、薬学部学生、救急救命士学生など様々な医療系学部の学生からも募集をし、共にインストラクションをしています。今回のBLS WSでは、大阪医科大学の他に、大阪大学、大阪市立大学、関西医科大学、京都大学、遠くは、広島大学、福井県立大学、川崎市立看護短期大学（神奈川県）、からインストラクターとして、医学生、歯学生、看護学生に来ていただきました。



受講生は、今までは大阪医科大学の医学生の中からのみの募集でしたが、「互いに教え合い学び合う」すなわち「自学自習」の姿勢をさらに進めるため、また、さらなる蘇生の輪を広げるため、今回からは、大阪医科大学附属看護専門学校に看護学生を受講生として参加していただけるようお願いしました。また、今回は京都大学医学部の学生からの要請もあり、参加した学生は、大阪医科大学医学部13名、附属看護専門学校3名、京都大学医学部1名となりました。

BLS（Basic Life Support）とは一次救命処置と訳され、傷病者が突然の心停止、窒息などで発見された時、近くにいた人（バイスタンダー）によってなされる救命処置のことであり、救急隊に引き継ぐまでの処置をいいます。BLSは、私たちのような近い将来、医療従事者になるものだけでなく、広く一般市民への普及・啓発活動も重要であるといわれています。



そこで、私たちLSCでは、BLSを自学自習にて修得した次のステップとして、NPO大阪ライフサポート協会（大阪市東淀川区、理事長：西本泰久本学救急医学教室准教授）、AHA（アメリカ心臓協会）、日本救急医学会などの機関において、インストラクターやプロバイダーの資格を取得し、自らの知識・技能の向上を図ったり、さらに興味のあるものは、市民向けの心肺蘇生法普及活動を行ったりもしております。

突然の心停止で倒れた人を救うためには、迅速な通報、迅速な心肺蘇生、迅速な除細動、そして高度な医療処置を行うことが重要とされていますが、その初めの3つの処置を行うのは医療従事者ではなく、その場にいた人（バイスタンダー）となります。LSCでは、今までに4回のBLS



WSを行ってきたわけですが、今回の受講の対象は医学生、看護学生としました。今回、全国にいるLSCのような活動をしている学生と話していると思うことは、本当に高槻の、大阪の、日本の救命率を上昇させたいのであれば、その対象を医療系学生に限っていたのではいけないのではないか、ということです。市民向けの講習会は、消防、医師会、NPOと様々な団体で行われていますが、学生にしかできないこと、学生のほうが良いこともあると思います。例えば、小学校、中学校、高等学校、大学のような教育機関で心肺蘇生法の講習会を行う際には、大学生・専門学校生である私たちの方が、年齢が近い、質問がしやすいなど、メリットもあるかと思えます。最近では、いくつかの大学で市民向け講習会が学生によって開催されるようになってきています。ただ、「学生がやるべきことなのか」という反対意見も頂戴しておりますし、実際に市民向けの講習会を本学のLSCで行うには時間がかかるかも知れません。しかし、学生の中に、市民に何かを伝えるという経験は、医師や看護師となった際の大きな糧になると思いますので、LSCで市民向け講習会を開催できますよう、部員一同、努力していこうと心をひとつにしているところです。



最後になりましたが、今回のBLS WSを開催するにあたって、ご理解ご協力いただいた、学務部の皆様、大阪医科大学附属看護専門学校の諸先生方、そして、常日頃から私たちLSCを指導していただき、機材を快くお貸しいただいた大阪医科大学生態管理再建医学講座救急医学教室の森田先生、西本先生、小林先生、新田先生、林先生はじめ教室の諸先生方に、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

これからも学内外の勉強会・講習会を積極的に開催していこうと思っておりますので、温かいご支援ご協力の程、宜しくお願いいたします。

## 学内行事

### 消火器取扱訓練及び地震体験の実施

平成21年9月10日（木）午後1時30分から総合研究棟前にて、高槻市中消防署の協力により、消火器取扱実地訓練と起震車による地震体験が行われました。

新入職員をはじめとする約100名の参加者は、消火器の取り扱い方、地震の揺れを体験し災害対策への認識を新たにしました。



### さつき会（献体登録者）総会開催

生前委託者（献体登録者）の総会（さつき会）が9月24日（木）午後2時から、本学の新講義実習棟P101教室にて開催されました。

例年ですと、当総会は5月に開催いたしておりますが、今年度は「新型インフルエンザ」の影響により当分の間、開催を見合わせておりました。

総会当日は、さつき会会員 約170名の出席を賜り、平成20年度成願者の御霊への黙祷を捧げたのち、竹中学長、岡村会長のご挨拶、平成20年度篤志献体活動報告、霊群住職の講話、リハビリテーション医学教室・佐浦教授の「長生きの秘訣」と題した特別講演が行われ、午後3時30分に閉会いたしました。



### 平成21年度 大学祭

今年は「目覚めよ」をテーマに10月10日（土）、さわらぎキャンパスにおいて「大学祭」が開催されました。

同キャンパスのグラウンドに設けられた野外特設ステージでは、軽音ライブを皮切りに、ヒーローショー（侍戦隊シンケンジャー）、空手部演舞、グリー部歌唱会、学生イベント、吉本芸人によるお笑いライブ、ビンゴ大会など、多彩な催し物が行われました。

また、キャンパス内の他の箇所においても、各クラブが様々工夫をこらしたイベントや出展を行い、日頃静寂なキャンパスもこの日ばかりは賑わいを見せていました。



第61回 西日本医科学生総合体育大会

第61回西日本医科学生総合体育大会が行われました。琉球大学医学部を代表主管校として、西日本の44大学が参加し、沖縄県や九州を中心会場にして、8月上旬にかけて20種目の競技が行われました。本学の主な成績は以下のとおりです。

総合成績：21位

上位成績：

ゴルフ部	団体戦	5位	
	個人戦	4位	大門 篤史
水泳部	女子団体戦	5位	
	男子200m個人メドレー	6位	久保田 康介
	400m個人メドレー	5位	久保田 康介
	200m自由形	6位	石橋 聖之
	女子 50mバタフライ	2位	太田 沙織里
	100mバタフライ	1位	太田 沙織里
	200mメドレーリレー	4位	前橋 伸子、新田 世衣子、 太田 沙織里、田中 智子
	200mフリーリレー	5位	島 紘子、田中 智子、 新田 世衣子、太田 沙織里
	400mフリーリレー	5位	新田 世衣子、前橋 伸子、 田中 智子、太田 沙織里
	卓球部	個人戦女子ダブルス	3位
弓道部	男子団体戦	5位	塚原 彰弘、三宅 輩弥、 安岡 貴之、野村 悠文 豊田 勝考、横矢 悠太
陸上競技部	男子走り幅跳び	2位	根来 考義
	女子200m	6位	鈴木 英理子
	400m	2位	鈴木 英理子
	走り幅跳び	4位	渡辺 零美
スキー部	男子総合	6位	
	女子総合	2位	
	男子15km	5位	小澤 孝弥
	継走競技	3位	富永 直樹、矢野 冬馬、 岩本 剛幸、小澤 孝弥
	女子S G	4位	西村 尚子
		6位	井上 知子
	女子G S	4位	井上 知子
	女子S L	5位	井上 知子
	女子3 km	1位	伊東 優
		2位	田中 稔恵
	3位	稲葉 惟子	

今年の総合成績は21位でした。参加された選手の皆様本当にお疲れ様でした。もう一度一昨年のように総合優勝をできるように、来年も頑張ってください。

先輩諸氏、教職員の皆様、今後とも温かいご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

平成21年 学友会会長 大門 篤史

### 保育室運動会

10月10日（日）、爽やかに晴れ渡った秋空の元、本学保育室の運動会が行われました。玉入れあり、かけっこあり、そして飛び入りゲストとして男性保育士扮する“バルーンマン!?”の登場には、その少々異様な扮装ぶりに子ども達は顔をひきつらせていましたが、闘志を奮い立たせて「アンパーンチ!!」と一致団結して、見事に退散させることができました。ギャラリー也大盛り上がり！保護者の方々、職員皆で楽しみ、充実したひとときとなりました。（保育室）



### 人権教育特別講義



平成21年度の人権教育に関する特別講義が下記のとおり開催されました。

これまでにない新しい人権侵害の様々な形態について詳しく説明があり、出席者は熱心に聞き入っていました。

日時：平成21年10月6日（火） 17：00～  
会場：臨床第一講堂  
演題：『インターネットによる人権侵害』  
講師：名桜大学  
          北部生涯学習推進センター  
          センター長 鈴木 邦治 先生

### 消防合同避難訓練実施

平成21年10月22日（木）に、56病棟からの出火を想定した訓練を行いました。約80名が参加し、火災通報、担架や車椅子による患者避難訓練や救助袋による降下避難訓練などを実施しました。



平成21年度 解剖慰霊祭



日時：平成21年10月17日（土） 14：00～  
場所：高槻市現代劇場

当日は好天にも恵まれ、多数のご遺族、さつき会会員（生前献体登録者）にご参列いただきました。来賓各位をお迎えし、本学役員、教職員、学生、看護専門学校生の参列のもと、諸霊位に対し、深い感謝とご冥福を祈り、厳かに終了致しました。

名誉・功労教授懇談会



日時：平成21年10月23日（金） 11：30～  
場所：ホテル日航茨木大阪

名誉教授11名、功労教授2名の出席により、名誉・功労教授懇談会が開催されました。松本名誉教授・元学長の乾杯の後、岩崎功労教授の司会により和やかに懇親会が進められました。



避難訓練

平成21年9月1日(火)

夏期休暇が終了し全員集合となったこの日、昨年に引き続き今年も地震発生を想定して避難訓練を行いました。アナウンスに沿って机の下で安全確保、その後クラス単位で避難しました。昨年に引き続き目標時間をはるかに短縮して速やかに避難でき、消火訓練も積極的に取り組みました。「備えあれば憂いなし」日頃も安全意識を忘れずに行動していきましょう！



## 交流会

平成21年9月4日(金)

トーナメント方式で各クラス全員参加でのソフトバレーボールは、今年の新入生はなかなかのチームプレー、負けじと取り組んだ2・3年生もなかなかのプレー。優勝は2年生、3年生は今年は惜しくも準優勝となりました！

クラスごとのパフォーマンスは、夏期休暇前から練習に取り組んできました。カッコイイチーム、かわいいチーム、体力と戦ったパワーチーム、その成果は流石でした！各クラスの団結力が今後につながることを期待しています。



## 戴帽式

平成21年10月16日(金)

秋空の清々しい晴れの日、1年生は待ちに待った戴帽式を迎えました。

午後1時、看護専門学校講堂で来賓ならびに保護者の参加のもと、看護学部に来春の設置が許可されると最後の戴帽式となる式が厳粛に挙行されました。

今年4月に看護の道に進んだ戴帽生62名は、大阪医科大学附属病院の小野看護部長と副学校長から戴帽されました。

緊張の中でも嬉しさはひとしお、真新しいキャップを着けた夫々の瞳は輝いていました。ナイチンゲール像からの聖灯拝受を受け、看護のともし火の中で誓いの言葉を斉唱し、今後への自覚と覚悟をあらたにしました。



### 誓いの言葉

- 私たち27回生は、次のことを誓います。
- ひとつ、専門的知識・技術を身につけ、自らの判断に責任を持つと共に、誰からも信頼を得られる看護師を目指すことを誓います。
  - ひとつ、私たちは、常に相手の立場に立ち、心身の痛みや辛さを理解し、心に寄り添う看護をおこなうことを誓います。
  - ひとつ、私たちは、生命に関わる者としての自覚を持ち、生涯学び続けることを誓います。



第6回 臨床研修指導医養成講習会開催

臨床研修指導医及びプログラム責任者は厚生労働省の開催指針に則った講習会に参加しなければなりません。本院では臨床研修の指導体制充実を目的として、平成17年度より毎年同講習会を開催しており、今年度も下記の要領にて聖路加国際病院の福井次矢病院長と高知大学医学部附属病院倉本秋病院長のご協力を得て指導医講習会を実施しました。

講習会のすべてのプログラムを修得した受講者には本院および厚生労働省から修了証書が授与されましたのでご報告致します。

- 1. 開催日時 平成21年 9月12日（土）午前 9時30分～13日（日）午後 4時40分  
（実質的な講習時間 16時間）
- 2. 場 所 新講義実習棟 6階
- 3. 運営組織（実施担当者）

実施責任者	花房 俊昭		タスクフォース	近藤 敬一郎
チーフディレクター	福井 次矢	聖路加国際病院 病院長	〃	杉野 正一
コ・ディレクター	米田 博		〃	島本 史夫
〃	河野 公一		〃	西本 泰久
チーフタスクフォース	倉本 秋	高知大学医学部 附属病院病院長	〃	白田 寛
コンサルタント	結城 暢一	近畿厚生局 臨床研修審査専門官		

4. 参加受講者

第6回講習会（37名）	
水谷 陽一	辻 雄一郎
佐浦 隆一	瀧谷 公隆
高橋 紀代	河上 千尋
古瀬 元雅	嶋 洋明
平岩 哲也	細川 隆史
寺前 純吾	片嶋 隆
井上 善博	飯盛 章雄
茅野 新	清水 徹之介
高橋 優子	田中 覚
田代 圭太郎	木村 光誠
常深 聡一郎	玉城 裕史
西村 渉	前田 雅道
岡 智子	日浦 正仁
永井 孝治	岡崎 番
後藤 昌弘	朝尾 直介
吉田 元樹	木戸上 洋一
榎原 敬二郎	堀之内 崇
佐々木 浩	—以上37名—
菅澤 淳	
小瀧 祥太	



## 第23回 特別講演会(医療安全対策室)・第4回 特別講演会(病院医療相談部)

テーマ：『安全に繋がる接遇』

講師：自治医科大学外科学講座呼吸器外科部門 教授 長谷川 剛 先生

開催日：平成21年7月31日（金）午後5時～  
※8月3日（月）・8月31日（月）はDVD上映

安全管理の体制確保に関する特別講演会が7月31日（金）午後5時から、臨床第一講堂・臨床第二講堂において、長谷川剛先生を講師としてお迎えし、各部門リスクマネージャー及びその他医療従事者865名（初日368名、DVD上映2日間497名）の出席のもと開催されました。

花房病院長の開会挨拶に続き、木下病院医療相談部長の司会により、長谷川先生から『安全に繋がる接遇』と題し院内の他職種間コミュニケーションの方法として、“Situational briefing (SBAR) ”、『状況 (S)、背景 (B)、評価 (A)、推奨 (R)』を用い、簡潔に相手へ伝えることについてご紹介いただきました。

講演後の質疑応答においても、参加者の質問に対し熱心にお答えいただきました。

また、研修終了後のアンケートでも、「他職種とのコミュニケーションの図り方、SBARの大切さを学ぶことが出来た」「2回挑戦ルール（一度連絡を取ってうまく伝わらなかったとき、必ずもう一度連絡を取るというルール）を知ることができ実践していきたい」「話にビデオやアニメを取り入れたり、始めて知る言葉や情報も沢山あったが、分かりやすく説明していただき大変勉強になった。先生ご自身の実体験の話も感動した。」等の意見が多く寄せられました。

最後に閉会の挨拶として、米田医療安全推進部長より同先生への謝辞を述べられ、講演が盛会のもと終了しました。



花房病院長 挨拶



木下病院医療相談部長 司会



米田医療安全推進部長 挨拶



全体風景



質疑応答

## ■第22回 事例検討会

開催日：平成21年9月18日（金）午後5時～6時 場所：臨床第一講堂、臨床第二講堂  
 ※9月24日（木）・28日（月）はDVD上映

テーマ・担当：

- ①手術における事例…………… 眼科 リスクマネージャー 南 政宏
- ②薬剤関連事例…………… 医薬品安全管理責任者 西原雅美
- ③接遇について…………… 病院医療相談部 課長 角江 司

9月18日（金）午後5時より、臨床第一講堂・臨床第二講堂において、米田医療安全推進部長の開会挨拶に続き、村尾医療安全対策室長の司会により、教職員を対象に事例検討会が開催されました。



眼科リスクマネージャー南先生より、眼科手術時に発生した事故事例についての概要説明、要因・問題点および今後の取り組みについて発表がありました。医薬品安全管理責任者西原課長からは、類似薬品の誤投与事例の紹介、サリドマイド製剤における安全管理手順について等、それぞれの本院での対応策について説明がありました。病院医療相談部角江課長からは、接遇から起こるトラブル事例を紹介され、接遇の基本姿勢について分かりやすく説明していただきました。

本院の事例を提示することで、今後の再発防止、安全への意識付けが深まっているように思います。

最後に閉会の挨拶として米田医療安全対策室長より同先生方への謝辞を述べられ、各部門リスクマネージャー及びその他医療従事者636名（初日282名、DVD上映会2日間354名）が出席され、講演が盛会のもとに終了しました。



村尾医療安全対策室長 司会



花房病院長 開会の挨拶



眼科リスクマネージャー 南先生



医薬品安全管理責任者 西原課長



病院医療相談部 角江課長



米田医療安全推進部長 挨拶

※ 医療に係る安全管理のための職員研修は、全ての職員が年2回以上出席し、安全に関する意識の向上等を図るものとされています。今年度、既に3回開催しておりますが、研修を受講していない方についてはDVDの貸し出しましたは医療安全対策室横研修室でのDVD上映をご利用いただき必ず研修を受講してください。（お問い合わせ 医療安全対策室 2号館5階 内線2990）



講師：兵庫医科大学病院 感染制御部  
主任教授 竹末芳正先生

去る9月8日、感染対策室主催の「第7回院内感染対策特別講演会」が開催されました。講師は兵庫医科大学病院感染制御部主任教授の竹末芳正先生、演題は「病院内における耐性菌対策&術後感染を予防するための処置・管理」でした。開会の挨拶は花房病院長、司会進行・講師紹介は浮村感染対策室長が行いました。

竹末先生は最初にMDRP（多剤耐性緑膿菌）対策について話されました。兵庫医大病院では感染制御部に複数の専任スタッフが配置されており、毎朝ICUベッドサイドカンファレンスを行い、さらに毎日病棟ラウンドを行うことで、カルバペネム系抗生物質、第4世代セフェム系抗生物質、ニューキノロン系抗菌薬などの使用例に対して積極的に介入しています。これらの抗菌薬使用例のほぼ半数、抗MRSA薬使用例の7割以上に感染制御部が関与しています。同病院では感染制御部が積極的な介入を行う以前、抗緑膿菌活性を有する抗菌薬ではカルバペネムが多くを占めていましたが、第4世代セフェム、静注用ニューキノロンを加えた3者がほぼ均等の使用になるよう、つまりカルバペネム偏重にならないように指導しました。さらにカルバペネムの原則1日3回投与を推進しました。その結果、介入前後で緑膿菌のイミペネム（メロペン<sup>®</sup>）耐性率が20%程度から5%以下に、耐性緑膿菌の分離率が8.9%から3.8%に、MDRP分離率も1.7%から0.5%に、いずれも劇的に減少しました。この結果がevidence-basedなのはもちろんですが、主治医の「感覚」というnarrative-basedな結果として、カルバペネムの「切れ味」が鋭くなるという効果もあったそうです。以上、MDRP対策としては抗菌薬の適正な選択およびPK/PDを考えた適切な投与方法が非常に効果的な方略であることを示されました。

一方、MRSAを代表とするグラム陽性菌感染に対しては抗菌薬の適正使用だけでは不十分であり、手洗いや速乾性擦込式手指消毒剤の使用などスタッフの手指衛生が非常に重要です。また米国では、ユニバーサルスクリーニングと術前除菌を組み合わせた、より積極的な術後MRSA感染予防法が考案されました。この方法は術前患者に対しリアルタイムPCRで鼻腔内保菌迅速検査を行い、陽性者を個室収容するとともに接触感染予防策を行い、術前にムピロシン（バクトロバン<sup>®</sup>）による鼻腔の除菌と並行してクロルヘキシジン（ヒビテン<sup>®</sup>）製剤によるボディウォッシュを5日間施行します。さらに術後感染予防のための抗菌薬の選択も変更するというものです。兵庫医大病院では現在導入準備中だそうです。

その他の術後感染予防策として術後高血糖予防、患者の喫煙と創感染との関係、ラビング法による手術時手洗い、ドレーン留置、創処置及びドレッシング、術前予防投薬等、いずれも明快なエビデンスを提示しながら説明されました。

質疑応答にて感染対策室の村尾副室長より、MRSA等のグラム陽性菌感染症に対する介入の効果について質問がありました。すると竹末先生は驚くことに、スタッフの手指衛生への介入は不十分であり、MRSA院内感染はうまくコントロールできていないと正直に話されました。生活習慣病ではないですが、ある意味スタッフの「習慣的な行動」に対する介入が必要な感染対策は、竹末先生のようなエネルギー豊富な先生をもってしても容易ではない、ということが浮き彫りになった質疑でした。

さて、当院ではMDRPの分離率が他施設に比べ有意に高いため、「竹末方式」を導入すべく、カルバペネムなどの「特定抗菌薬」の処方に対してオーダーリングシステムによる「届出制」を採用いたしました。特定抗菌薬を使用する際は、抗菌薬の適正使用について今一度ご確認頂くようお願いいたします。ちょっとした心配りで多剤耐性菌の発生を防ぎ、抗菌薬の「切れ味」を取り戻すという、患者にとっても医療従事者にとっても有益な効果もたらされるものと考えております。各位のご理解とご協力をお願いする次第です。



司会：感染対策室長  
浮村 先生



病院長 花房 先生



感染対策委員会委員長  
玉井 先生

## ■大学病院連携型高度医療人養成事業で連携大学病院に短期出向

現在、文部科学省の『近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム』に171名が登録されており、プログラムに則って本学から2名（久保洋一郎先生、大内正太先生）、関西医科大学から3名の若手医師が相互の大学病院で研修をされました。先生方からも評価をいただいております、出向していただいた精神神経科・久保洋一郎先生から感想をいただきましたので、ご紹介いたします。

なお、登録された先生方が連携大学病院で研修できるよう各診療科の積極的なご協力を宜しくお願いいたします。

キャリア形成支援センター



久保洋一郎先生



大内正太先生



### 「ここが知りたいキャリア形成支援センター」

精神神経科 久保 洋一郎

私は2009年3月23日から3週間、近畿圏循環型研修コースで関西医科大学附属滝井病院精神科にて研修を行いました。当初は、このコースが発足して一人目の研修ということにいささか不安を抱いていました。

大阪府守口市にある滝井病院ですが、住宅街の中に位置し明確に敷地内外が区切られていないため、道を歩いているといつの間にか病院の敷地内に入っていた、という印象が残っています。昔、近くに住んでいたことがあったので、不安と懐かしさが混じりあった研修開始となりました。

初日には、お互い初めての試みということもあり、関西医科大学の先生もどう研修させるべきか手探りだったと思います。私とは逆に当科に研修に行くことになった先生の患者を引き継ぎ、1週間の仕事を代わりにすることになりました。入院患者の診察や、リエゾンの対応、脳血流シンチグラフィの薬剤の投与、等の業務を行いました。外来診察の補助では、オーダーリングシステムが当院と違うので、他の先生に助けをもらいながらやらざるを得ませんでした。

また、当科にはない3つのチームで医療を行う体制がとられていて、チームごとの小カンファレンスで患者各々の細かい内容が話し合われていたのが印象的でした。その他、薬物の使い方も少し違い、普段と違う視点で薬物を考えるいい機会になりました。こういう部分は、他の教育圏に足を踏み入れないと分からないことだと思います。また、最近出会うことが少なくなった神経梅毒の症例の入院をとらせ

## キャリア形成支援センター

でもらったりしました。毎週月曜の夜には嶽北佳輝先生、西田圭一郎先生を中心とした（和気あいあいとした）SPECTの読影会に参加させてもらいました。

病床数は39床と当科より少なめで、関西医科大学精神科の方が当科よりも医師1人当たりの担当患者は少人数でした。患者1人を医師1人が受け持ち、患者1人を医師2人から3人で受け持つという当科の体制と違っていました。関西医科大学精神科では1人の患者をじっくり診るということに、当科では様々な症例を診ることに適している、という違いがあるのだと思います。

当科との違いを中心に書かせていただきましたが、今回のこの研修での一番の収穫は、今まで自分がやってきたこととの違いは何かということを感じとれたことです。海外に行って初めて母国のことが分かるというような、そういう感覚に近いものを感じました。

研修期間によって感じ方は違うと思うのですが、私の場合3週間という短期間の研修だったので、他大学の医療を勉強するというよりは他大学の視点で自分の大学を見ることができたことが大きいと思います。

最後に、木下利彦教授、田近亜蘭先生ならびに医局の先生方、短い間でしたが大変お世話になりました。この経験を生かして今後も精進していきたいと思えます。ありがとうございました。

### 「淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム」 大学間協定書締結の調印式が行われました

平成21年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」で「淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム」が採択され、平成21年9月9日（水）ホテルグランビア大阪において、関西医科大学の山下敏夫学長と本学竹中学長を始め関係各位の出席をいただき、大学間協定書締結の調印式を挙行了。また、地域連携では本学は大阪府と高槻市・高槻市医師会、関西医科大学は枚方市・枚方市医師会と連携協力することで協定書を締結しました。今後はメディカルトレーニングサポートセンターの活動を通じて地域医療に貢献する計画をしていますので、皆様方の絶大なるご支援を宜しくお願いいたします。



淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラムの協定書調印式において  
左：関西医科大学 山下敏夫学長 右：大阪医科大学 竹中 洋学長



協定書…上段は大学間下段は大阪府と高槻市・高槻市医師会

## ■メディカルトレーニングサポートセンターの内覧会開催

文部科学省の補助事業である『近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム』と『淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム』では、医学生及び学内医療人の育成と地域医療への貢献を主たる目的としています。これらのプロジェクトを推進するために診療技術トレーニングが行える施設の設置が必須となっており、このたび、高度医療技術の取得に欠かせない各種シミュレーターを整備したメディカルトレーニングサポートセンターが完成しました。

平成21年10月5日（月）午後4時から学内の方々を対象とした内覧会を開催し、内覧会には國澤隆雄理事長を始め、大学・附属病院・看護専門学校の教職員の方々が多く見学に来られ、充実した医学教育機器や最新のシミュレーターの体験を通じて、大変興味深く手に触れていました。今後は多くの方々に施設を利用いただけるようにホームページ等を通じてご案内します。

使用する場合は、事前にキャリア形成支援センター（担当：栗山・畠中 内線3293・3295）にご連絡願います。



メディカルトレーニングサポートセンターの関係者



メディカルトレーニングサポートセンター内覧会

### 【シミュレーターの一部紹介】



超音波検査シミュレーター(ウルトラシム)



・内視鏡手技トレーニングシミュレーター…左側  
・腹腔鏡下手術手技シミュレーター……………右側

# 緩和ケア委員会報告

## ■ 緩和ケア委員会報告

平成21年7月1日付けにて病院長直属の緩和ケア委員会が設置され、その実働チームとして緩和ケアチームが位置づけられました。現在緩和ケアチームは、入院の患者様を中心にその活動を行っています。今回、緩和ケアに関する研修会・セミナーを行いましたのでご紹介します。



## ◇第1回大阪医科大学附属病院緩和ケア研修会 開催報告

緩和ケア委員会・緩和ケアチーム 川部伸一郎

2007年のがん対策推進基本計画で、「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことが目標として掲げられ、2008年には医師に対する緩和ケアの基本的な知識等を習得するための研修会に関する健康局長通知「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」が出されました。この様な背景の中で、いつでもどこでも切れ目なく、がんの苦痛（身体と心のつらさ）に対する医療が受けられるように、がん緩和ケアの普及を目的として緩和ケア研修会（PEACEプロジェクト）が全国のがん診療連携拠点病院で行われるようになりました。当院でも昨年より三島医療圏緩和ケア研修会を、医師を対象に行っています。一方で、緩和ケアは多職種でチーム医療として取り組むことが重要であり基本的な緩和ケアの修得は医師だけでなく様々な職種に必要となっています。

今回、緩和ケア委員会が主催し、看護部の協力とがんプロフェッショナル養成プランの援助を受けて、第1回大阪医科大学附属病院緩和ケア研修会を平21年9月12日に開催致しました。この研修会はPEACEプロジェクトのプログラムに準拠した構成となっており、合計480分のプログラムで構成されています。参加対象者は若手医師（研修医・レジデント）ならびにがん看護研修を修了した（もしくは受講中）看護師とし、医師10名、看護師12名の合計22名が研修を受けました。



研修プログラムは講義だけでなく、グループワークやロールプレイを取り入れたワークショップ形式で行いました。緩和ケア概論、疼痛緩和、コミュニケーション技術は講義形式で研修を行い、疼痛緩和の事例検討に関しては小グループに分かれてグループワーク形式で行いました。このグループワークでは、医師・看護師がチームとなって身体的な痛みだけでなく、痛みを全人的に捉えてアセスメントとマネジメントを行いました。また、地域連携のセッションでも同様にグループワーク形式で研修を行い、患者を医療からの側面だけでなく、生活の側面から捉えるような議論を行っていました。両セッションとも非常に活発で有意義な研修が行われていたと思います。このようなグループワークを行うことによって、「他の職種の意見が聞けて非常に参考になった」との意見が多く見られたのも、これら多職種によるグループワークの特徴かと思われます。

今回の研修会で最も臨床に役立つと評価されたセッションは告知のロールプレイでした。難治がんであることを患者に告知するというシナリオを医師役、患者役、観察者役のそれぞれの役を全員に体験してもらいました。ロールプレイを体験した後の感想は、「がんと言われて頭が真っ白になった」、「がん告知される患者の気持ちが初めて分かった」など患者の気持ちを理解するとともに、このような患者の気持ちに配慮した病状説明が必要であるといった感想が多くみられました。また、初めて医師役を



体験した看護師からは「医師の苦勞が初めて理解できた」といった、がん診療における医師の役割の大きさや苦悩を体感したと伴に、患者役を体験することによって、「悪い知らせが伝えられる時に立ち会う機会があれば、患者の気持ちに寄り添うようにしていきたい」というような、病状説明が行われる際の看護師としての役割も再確認できたようです。

以上のように、充実した1日間の研修を終え、研修会の最後には花房病院長から参加者22名全員に修了証が授与されました。今後は、医師・看護師だけでなく多くの職種にも参加してもらい、緩和ケアの普及に努めていきたいと考えています。最後に、この研修会を開催するにあたって、花房病院長をはじめ、多くの方々に多大なる協力をしていただきました。深く御礼を申し上げます。深く御礼を申し上げます。



### ◇第6回 三島圏域がん・緩和医療セミナー 開催報告

緩和ケア委員会・緩和ケアチーム 桑門 心

2009年10月17日に三島圏域がん・緩和医療セミナーが大阪医科大学臨床第1講堂で開催されました。地域の開業医や訪問看護ステーションのスタッフ、ソーシャルワーカー、当院のスタッフなど多彩な顔ぶれが参加されておりこの分野の幅広さを垣間見ることができました。本学は本年4月よりがん診療連携拠点病院に指定されており、これまで以上に地域との連携が重要な課題となっています。今回のセミナーは地域との連携を深めることを目的として開催され、3人の在宅医の先生に症例の呈示を行っていただきました。その中では病院間同士の病病連携の大切さや、在宅療養を行う際のバックアップ病院の大切さ、早期から在宅医を紹介することの大切さ、緩和ケアチームなどの専門的技量の地域での共有の可能性、大学でのレスパイト入院の必要性など様々な問題が議論されていました。また、当院からは在宅療養への障害をテーマに発表がありました。いずれに関しても具体的な対策はすぐには提示できないものばかりであった印象でした。しかし、この地域における様々な問題点があげられ、それに対しては地域全体として協力し取り組んで行かなければならない、という共通認識を持つことができました。閉会の挨拶で、病院長からも大学としての地域との取り組み方を考え直す必要があるというご意見も頂き、この会を一つのきっかけとして三島圏域全体の医療環境の改善がなされていくような気が致しました。



## 平成21年度 市民公開講座

### ■第4回

平成21年9月5日(土) 14時～ 臨床第1講堂

『寝たきりにならないための  
リハビリテーションのすすめ』

リハビリテーション医学 教授 佐浦 隆一

『転倒予防』

附属病院 リハビリテーション科  
理学療法士 高山 竜二



『高齢者のケア』

附属病院看護部 看護師長代理 高井 千登美

司会：皮膚科学 教授 森脇 真一



## 平成21年度 市民公開講座開催予定

回	開催日	演 題	講師	演 題	薬剤師
第5回	11月7日(土) (第1土曜日)	新しい心肺蘇生を学 びましょう ※実技有り	救急医療部 教授 森田 大 救急医療部医員	緊急時に使用する お薬～狭心症に使用 するお薬について～	畑 武生
第6回	12月19日(土)	リンパ浮腫って何？	形成外科 講師 中井 國博	リンパ浮腫治療に関 連するお薬～抗菌薬 について～	山田 智之
第7回	平成22年 1月16日(土)	「治験」ってなあに？～ 「治験に参加しません か？」と言われたら～	臨床治験センター センター長 林 哲也 センター一同	治験センター担当	

※各回において、お薬相談、看護相談を実施致します。

## ■市民公開講座を終えて

病院看護部 高井 千登美

この度、看護師の立場から市民公開講座で「転倒予防の生活指導とリハビリ体操」というテーマでお話しさせていただく機会を得ました。転倒の予防には、生活の中に体操を取り入れ、在宅での転倒の要因を取り除くことが必要になります。市民の皆さまが自分自身の健康への意識と健康管理をされて寝たきりにならないで日常生活を有意義に過ごしてもらうための一助になれば幸いに思います。

高槻市の高齢化（H22.2%）は全国平均より上回っています。今回のテーマである「寝たきりにならないためのリハビリテーションのすすめ」からも今回の内容をご理解されて、活力のある生活を長く続けられることを切望します。

今後も、大阪医科大学の職員として市民の皆さまの健やかな生活の維持に少しでも貢献できるよう看護の提供を行っていきたいと考えています。



## 平成21年度 高槻市大学交流センター事業 市民講座

### [第1回] ※台風18号により延期

平成21年10月8日（木）16：30～18：00  
高槻市総合市民交流センター 7階 第6会議室  
『酒との付き合い方』  
化学・生体分子学教室 教授 古谷 榮助

台風18号により中止となりました  
第1回市民講座は、平成22年2月18日（木）  
に開催することが決まりました。

### [第2回]

平成21年10月15日（木）16：30～18：00  
高槻市総合市民交流センター 7階 第6会議室  
『薬は体に何を？』  
薬理学教室 教授 朝日 通雄



### [第3回]

平成21年10月22日（木）16：30～18：00  
高槻市総合市民交流センター 7階 第6会議室  
『法医学はどこまで真実を語れるか？  
—デジタル時代の法医解剖』  
法医学教室 教授 鈴木 廣一



## 保健管理室からのお知らせ

### 保健管理室からのお知らせ

#### ■ 秋の職員健診について

10月19日(月)～10月30日(金)に平成21年度職員定期健康診断、有機溶剤・特定化学物質健康診断、長時間労働者健康診断を実施しました。健康診断は「自分の健康、生活習慣を考える」良い機会です。所見の有無に関係なく今回の健康診断結果を活用して、自分自身の体の状態や生活習慣を振り返ってみましょう。また未だ健康診断を受けていない方は、早急に健康診断を受けて下さい。

#### 【歩数計（万歩計）貸し出します！】

新しく、歩数計を導入しました。ご自身のデータを基に、1日の生活（身体活動）パターンや消費カロリーの推移を1日単位でグラフ化し、客観的に見る事が出来るようにしてお渡します。

一般的な歩数計と同じように装着し、いつものように生活して頂くだけです。歩数表示の他、1日のエネルギー総消費量・運動量などが表示され、運動の強度判定も表示可能です。これらのデータは一定期間連続して記録することが出来ますので、この記録がご自身のデータとなります。

自分では気付かなかった生活習慣を一緒に発見しませんか。

対象者：本学教職員（派遣、アルバイト含む）  
定員：10名  
期間：3か月（場合によっては延長も有）  
費用：無料  
申込み：保健管理室

#### ■ インフルエンザについて

これまで予防の基本としてワクチン接種をお勧めしてきましたが、今年は、新型インフルエンザワクチンだけでなく、季節性インフルエンザワクチンの供給量も十分ではありません。希望されても、接種できない場合があります。そのため下記を注意して予防に努めて下さい。

#### 【インフルエンザにうつらない、うつさないために】

##### ① 手洗いとうがい

食事や作業の前後、外出後などは十分に手洗いとうがいをしましょう。指と指の間、親指の付根、指先、手首などは洗い残しやすい部位となっていますので、注意して洗いましょう。

##### ② 体力の低下を防ぐ

低栄養の予防、過労防止、睡眠・休養の確保、生活リズムの維持、水分補給を心がけ、体力の低下を防ぎましょう。

##### ③ 適度な湿度を保つ

インフルエンザウイルスは低温・低湿を好むため、加湿器などで適度な温度、湿度を保つことが効果的です（22℃前後の室温、50～70%の湿度を保つことが望ましいとされています）。

##### ④ 人ごみを避ける

なるべく人ごみを避け、必要以上に外出をしないで下さい。

##### ⑤ 咳エチケットを守りましょう

咳、くしゃみがでる時には、マスクを着用しましょう。マスクは飛沫による感染をある程度防ぐ効果があります。マスク着用をしてない場合は、他の人から顔をそむけ、ハンカチやティッシュで口や鼻を覆いましょう。手で覆うのは避けて下さい（手にウイルスを着けないため）。

#### 【発熱、咳など疑わしい症状が出現した場合】

罹患が疑われる症状が出現した場合、業務や講義、実習を止めて、上司や保健管理室（学生の場合）に報告し指示を仰いで下さい。またインフルエンザと診断された場合は自宅療養をして下さい。

# 保健管理室からのお知らせ 歴史資料館関係 研究助成金等について

## ■ 3回目B型肝炎ワクチン接種・3回ワクチン接種後抗体検査のお知らせ

下記の要領で3回目B型肝炎ワクチン接種、3回ワクチン接種後抗体検査を実施致します。対象となられる方には案内を個人通知致しますので、受検して下さい。

	3回目B型肝炎ワクチン接種	3回目ワクチン接種後抗体検査
日 時	平成21年12月2日(水)、3日(木) 15:30~16:30	平成22年1月20日(水)、21日(木) 15:00~16:00
場 所	保健管理室(研究棟1階)	

## ■ 歴史資料館からのお知らせ

### 【歴史資料館展示資料恵与者】

平成21年7月1日から平成21年9月30日までに1名の方(別表)よりご恵与賜りました。

本事業の趣旨をご理解いただきましたご厚意に対しましてここに改めて心よりお礼申し上げます。

(敬称略)

受領日	恵与者氏名	資料名	恵与者と本学の関係
H21.9.17	木下 光雄	第23回西日本医科学学生総合体育大会パンフレット2点及び記念章(銅賞)、その他2点	医学部 昭和49年卒

## 研究助成金等について

### ■平成21年度 医学研究助成 [財団法人大阪難病研究財団]

研 究 課 題 名	氏名(所属名・職名)	助成金額
難治性心疾患でのカベオリン3による膜タンパク質制御機構の解明	中川 孝俊(薬理学・助教)	120万円

### ■2009年度 医学系研究奨励金(生活習慣病) [財団法人武田科学振興財団]

研 究 課 題 名	氏名(所属名・職名)	助成金額
糖尿病合併症におけるキマーゼの病態生理学的役割の解明	高井 真司(薬理学・准教授)	300万円

### ■2009年度(平成21年度) 一般公募研究 [財団法人糧食研究会]

研 究 課 題 名	氏名(所属名・職名)	助成金額
乳腺細胞における母乳脂質成分調節機構の解析-授乳母体の食事摂取が母乳成分に与える影響の分子生物学的検討-	瀧谷 公隆(小児科学・講師(准))	100万円

○研究協力課から処理(申請・機関承認等)しました公募助成金他のうち、内定・採択を確認できたものを掲載しています。

研究協力課へ掲載依頼のため情報提供下さったものを含めています。

# 研修結果報告

---

.....

## 通信教育講座の研修結果報告について

平成20年度の管理職研修は本年1月からスタートし、本年8月で修了しました。今回は管理職を対象にした管理者基本コース、監督職を対象にしたマネジメント基本コースを20名が受講され、全員が無事修了されました。

なお、下記の方々については優秀な成績を収められましたので、紹介させていただきます。今後、研修で習得されましたことを実務に生かせるよう頑張ってくださいと思います。

### 【管理者基本コース】

課長代理 濱田 松治 (総合企画部)

課長代理 中谷 尚文 (医事課)

### 【マネジメント基本コース】

主任 小野 裕 (学務部)  
主任 岩井 誠 (広報・入試センター)  
主任 重松 恵子 (医事課)  
主事 松本 玲子 (図書館課)  
主事 森本 正道 (病院医療情報部)  
主事 松本 洋一 (中央放射線部)  
主事 牧野 順子 (病院薬剤部)  
主事 西田 豊美 (栄養課)

主任 前田 将昭 (学務部)  
主任 松田 久美 (総合企画部)  
主任 高田 直紀 (医事課)  
主事 岡田 貴子 (庶務課)  
主事 濱村美恵子 (眼科学)  
主事 穂刈 玲子 (病院薬剤部)  
主事 荒木 里美 (栄養課)

## ■主要会議とその主な議題(平成21年8月～10月)

### 【理事会】

〔平成21年8月11日〕

—審議事項—

1. 学校法人大阪医科大学歴史資料館規程の一部改正について
2. 看護学部研究棟の建築業者決定について

—報告事項—

1. 日本私立医科大学協会理事会報告
2. 担当理事運営会議報告
3. 耐震工事に係る病院立替
4. 病院関係報告
5. 学事関係報告
6. その他

〔平成21年9月8日〕

—審議事項—

1. 大阪医科大学大学協議会規程の制定について

—報告事項—

1. 法人運営体制について
2. 保育所運営について
3. 健康科学クリニック関係報告
4. 学事関係報告
5. 病院関係報告
6. 看護学部設置申請関係報告
7. その他

〔平成21年10月13日〕

—審議事項—

1. 理事の選任について
2. 大阪医科大学附属看護専門学校学則の一部改正について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 日本私立医科大学協会理事会報告
3. その他

### 【臨時理事会】

〔平成21年8月27日〕

—審議事項—

1. 大阪医科大学学則の一部改正について

—報告事項—

1. 看護学部設置申請に係る報告

### 【大講座主任教授会】

〔平成21年9月9日〕

—審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 今年度及び今後当面の教員評価について
3. 短時間正職員制度試行概要について
4. その他

〔平成21年10月14日〕

—審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 大阪医科大学行動憲章〔案〕について
3. 平成22年度予算基本方針について

### 【教授会】

〔平成21年8月24日〕臨時

—審議事項—

1. 看護学部設置に伴う組織と学則の変更について

—報告事項—

1. 学長報告

〔平成21年9月2日〕

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 今後発足する教授選考委員会での選考手続きに関する件
3. 感覚器機能形態医学講座耳鼻咽喉科学教室教授選考委員会委員長の選出及び今後の日程について
4. 学長諮問委員会規程〔案〕及び学部・附属病院将来計画学長諮問委員会細則〔案〕・学内ネットワーク構築に関する学長諮問委員会細則〔案〕について
5. 鈎奨学基金研究助成金審査委員の選出について
6. 学部学生の休学願い出について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育機構長報告
4. 倫理委員長報告
5. 市民公開講座運営委員長報告
6. 病院長報告

## 主要会議報告

---

### 7. その他

[平成21年9月16日]

#### —審議事項—

1. 人事に関する件
2. 今年度及び今後当面の教員評価について
3. 今年度大阪医科大学メディカルトレーニングサポートセンターについて
4. 大阪医科大学国家試験対策委員会規程について
5. 学長諮問委員会規程〔案〕及び学部・附属病院将来計画学長諮問委員会細則〔案〕・学内ネットワーク構築に関する学長諮問委員会細則〔案〕について
6. 臨床教育教授及び臨床教育准教授の選出について
7. 入試2次試験のあり方について
8. 第5学年生の懲戒〔訓告〕処分について

#### —報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 病院長報告
4. 中山国際医学医療交流センター長報告
5. その他

[平成21年10月7日]

#### —審議事項—

1. 人事に関する件
2. 内科学Ⅲ教室教授選考方針について
3. ホームページ委員会委員の選出について

#### —報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育センター長報告
4. 倫理委員長報告
5. その他

[平成21年10月21日]

#### —審議事項—

1. 人事に関する件

2. 内科学講座内科学Ⅲ教室教授の選考方針について
3. 感覚器機能形態医学講座耳鼻咽喉科学教室教授の選考について
4. 学長諮問委員会委員長の指名について
5. 大阪医科大学臨床教育教授及び臨床教育准教授規程の一部改正について
6. 大阪医科大学臨床教育協力機関協定規程の一部改正について

#### —報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育センター長報告
4. 病院長報告
5. その他

### 【大学院医学研究科委員会】

[平成21年9月16日]

#### —審議事項—

1. 平成21年度学位論文審査申請について
2. 平成21年度大学院整備重点化経費(研究科特別経費)選定について
3. 学外(海外)研修許可願について
4. 平成21年度研究生新規申請者について

#### —報告事項—

1. 平成22年度(財)中島記念国際交流財団日本人若手研究者研究助成金募集について
2. 平成22年度(財)中島記念国際交流財団日本人海外留学奨学生募集について

[平成21年10月7日]

#### —報告事項—

1. 平成21年度学位論文審査について
2. 第6回三島圏域がん・緩和医療セミナーについて
3. 臨床研究教育研修会の開催について
4. 平成22年度大学院入学試験要項・大学院医学研究科要項について



## ■主な行事日程(平成21年12月～平成22年2月)

<p>12月2日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会・診療科長会</p> <p>3日(木) 看護学部推薦・社会人入学試験</p> <p>5日(土) 実験動物慰霊祭</p> <p>7日(月) 看護学部推薦・社会人入学試験合格発表</p> <p>8日(火) 理事会 臨床研究教育研修会</p> <p>9日(水) 大講座主任教授会</p> <p>16日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会</p> <p>18日(金) 看護専門学校クリスマスコンサート</p> <p>19日(土) 平成21年度第6回市民公開講座</p> <p>21日(月) 看護専門学校冬期休暇(～1月7日)</p> <p>22日(火) 病院運営会議</p> <p>平成22年</p> <p>1月4日(月) 年賀交歓会</p> <p>6日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会・診療科長会</p> <p>7日(木) 学位申請受付締切</p> <p>13日(水) 大講座主任教授会</p> <p>16日(土) 大学入試センター試験(～17日) 平成21年度第7回市民公開講座</p> <p>19日(火) 理事会</p> <p>20日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会</p> <p>22日(金) 看護学部一般入学試験(前期)</p>	<p>23日(土) 高槻市大学交流センター事業～5大学リレー講座～</p> <p>27日(水) 病院運営会議</p> <p>29日(金) 看護学部一般入学試験(前期)合格発表</p> <p>2月3日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会・診療科長会</p> <p>5日(金) 大学院医学研究科入学試験(～6日)</p> <p>9日(火) 理事会</p> <p>10日(水) 医学部一般入学試験(前期)1次試験</p> <p>13日(土) 第104回医師国家試験(～15日)</p> <p>19日(金) 教授会 医学部一般入学試験(前期)1次試験合格発表</p> <p>21日(日) 第99回看護師国家試験</p> <p>23日(火) 医学部一般入学試験(前期)2次試験</p> <p>24日(水) 病院運営会議</p> <p>26日(金) 臨時教授会 医学部一般入学試験(前期)2次試験合格発表</p> <p>医学部センター試験利用1次入学試験合格発表</p> <p>大学院医学研究科入学試験合格発表</p> <p>看護学部一般入学試験(後期)</p>
---	--

## ■平成21年度上半期病院患者動態

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計	H21年度平均	前年度平均	対前年比(%)
延入院患者数	21,034	20,122	21,064	22,128	21,093	20,106	125,547	20,924.5	22,397.0	-6.6
(1日平均患者数)	701.1	649.1	702.1	713.8	680.4	670.2	-	686.1	734.3	-6.6
(新入院患者数)	1,298	1,140	1,301	1,324	1,279	1,188	7,530	1,255.0	1,316.5	-4.7
(病床稼働率)	85.9	79.5	86.0	87.5	83.7	82.8	-	84.2	89.2	-5.6
(平均在院日数) [全体]	15.0	16.1	16.0	15.7	15.1	16.2	-	15.7	16.0	-2.0
延外来患者数	46,266	40,160	45,475	47,823	43,498	43,532	266,754	44,459.0	45,578.0	-2.5
(1日平均患者数)	2,011.6	1,912.4	1,977.2	1,992.6	1,812.4	2,073.0	-	1,963.2	1,981.7	-0.9
(初診患者数)	4,717	4,016	4,729	4,839	4,639	4,280	27,220	4,536.7	4,759.7	-4.7

## ● 平成21年度 医療事故防止標語の標語決定 ●

医療の安全確保に対する意識向上のための『平成21年度医療事故防止の標語』を職員より募集し、応募総数173作の中から、厳正かつ公平な検討の結果、下記のとおり各賞が決定しました。

※ 入賞作品については、シール形式にし、外来・病棟・各部署へ貼付しています。

### ◎理事長賞（庶務課）



### ◎病院長賞（36病棟）



### ◎医療安全推進部長賞（呼吸器内科）



### ◎佳作



積み上げる 小さな改善 大きな成果

（栄養部）

医療者の 心のストレス ミスのもと



（脳神経外科外来）



忙しい 時こそゆっくり 深呼吸

（中央放射線部）



慣れてきた 安心感が ミスのもと

（病院医療相談部）

患者との 対話を深めて 事故防止



（医事課）

## 俳句

### ◆大阪医科大学俳句会（八・九・十月）

長梅雨や本朝二十不孝読み

山崎隆司

片蔭をゆづりて人を行かしむる

同

病院の土手はすつかり葛の花

今井雄介

晩夏なり白髪スポーツ刈とする

同

沈黙は無言にあらず地虫鳴く

中川一成

池の恋はねて晩夏光輪となりぬ

田中豊夫

湯上りの父の縁側布袋草

吉田孝江

「秋草図屏風」の低き女人の間

同

教へ子の老ゆれば同志法師蟬

飯塚久子

先代の火鉢ごと継ぎ布袋草

同

父の行くあとを子が行く土用波

美濃 眞

少年に秘密の基地や日雷

同

組まれゆく銚子の柱に方位文字

宮脇芳美

牛若の背比石や鴟の声

同

### 投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下さい。当句会で会員の出句と同じように選句します。入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-8686 高槻市大学町2-7  
大阪医科大学

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。

表紙絵：ツワブキ（キク科）

海辺に生えるものである。花、葉の調和が美しいので、園芸用として庭石の隅に植えられている。今ごろ（10月～11月）花期を迎え、枝分かれした数本の花茎の先端に黄色の花を付けている。親茎から枝分かれる茎は下の方が長く、上に行くに従って短くなっている。花は並んだようになっている（散房花序という）。

フキに似た葉で表面に艶（ツヤ）があるので、その名がある。

大阪医科大学 名誉教授 富士原 彰

### 個人情報の取扱いについて：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これに伴い総務部では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総合企画部 学報編集担当係 電話 072-683-1221代  
E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第82号

発行年月 平成21年11月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総合企画部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/>